

総務委員会資料

所管事務の調査（報告）

富士見周辺地区整備推進計画（案）について

資料 1 富士見周辺地区整備推進計画（案）【概要版】

資料 2 富士見周辺地区整備推進計画（案）

資料 3 パブリックコメント募集案内

令和元年 11 月 21 日

総務企画局

1. 「整備推進計画」の概要

(1) 富士見周辺地区の範囲

富士見周辺地区とは、国道15号、国道409号、富士見鶴見駅線、川崎駅扇町線（新川通り）の4つの幹線道路で囲まれた約93haの区域。
 （富士見1、2丁目、榎町、宮前町、新川通、境町、大島1丁目を含む）

(2) 川崎市都市計画マスタープラン川崎区構想での位置づけ（平成19年3月）

【川崎駅周辺地区の活性化と魅力の向上をめざして】

- ・川崎駅周辺地区との連携を強め、まちの回遊性を高めるとともに、市民が自由時間を豊かに過ごすことのできる場として位置づけ、富士見公園の再整備や公共公益施設の再配置・再整備を検討
- ・富士見公園等を核にして、老朽化した分譲マンション団地の建替え等、居住環境の改善と優良な都市型住宅の形成を図る。

【富士見公園や身近な公園の充実をめざして】

- ・富士見公園周辺のまちづくりと連携しながら、都市のオアシス空間として、「富士見周辺地区整備基本計画」（以下「基本計画」）に基づく公園機能の再整備に努める。

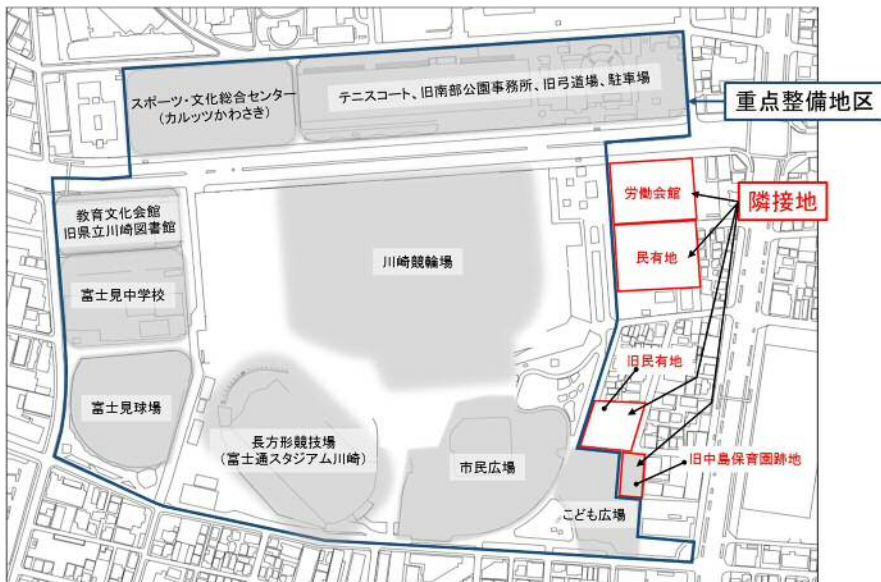


富士見周辺地区の範囲

(3) 「整備推進計画」の対象地域

- 富士見周辺地区約93haのうち、富士見公園と富士見中学校などから成る約18haの地区は、富士見周辺地区全体のまちづくりの根幹をなす地区であり、「重点整備地区」と位置付けている。
- 整備推進計画では、「重点整備地区」を中心に、総合的・一体的な整備を進める上で必要な隣接地（旧中島保育園跡地や民有地など）を含めた合計約20.6haを対象地域とする。

※基本計画等での計画対象地域（重点整備地区の隣接地）のうち、整備済の市立川崎高等学校や川崎区道路公園センターについては、今回の計画対象地域から除外し、市民館機能の移転により今後改修予定のある労働会館を計画対象地域に新たに編入

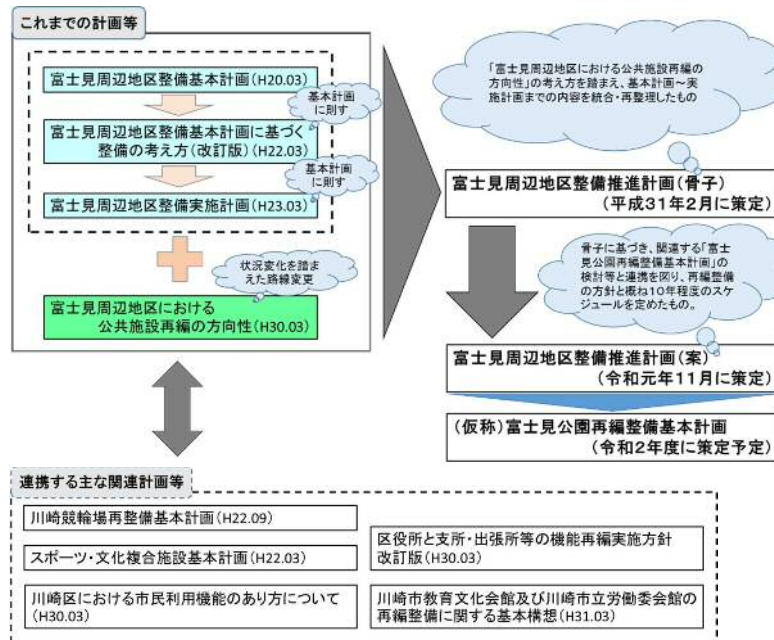


【整備推進計画での計画対象地域図】

(4) 「整備推進計画」の位置づけ

「基本計画」策定以降、段階的に計画等を策定し取組を進めてきたが、「富士見周辺地区における公共施設再編の方向性」（以下「公共施設再編の方向性」）を踏まえ、これまでの計画を統合・再整理した「富士見周辺地区整備推進計画（骨子）」に基づき、再編整備の方針と概ね10年程度の整備スケジュールについて、「富士見周辺地区整備推進計画（案）」として定める。

※公園の設えや具体的な整備内容など詳細は、民間活力の導入検討を踏まえ、令和2（2020）年度に策定予定の「（仮称）富士見公園再編整備基本計画」の中で定めることとする。



2. これまでの経緯

(1) 「基本計画」策定時の富士見周辺地区の課題

- 富士見周辺地区には、富士見公園を中心に様々な市民利用施設が集積しており、市民の憩いの場やスポーツ・文化・レクリエーション活動の拠点となっているが、公園本来の緑地や広場が少なく、施設の老朽化などの課題もあり、都心における総合公園としての機能回復や、スポーツ・文化・レクリエーション活動機能強化が求められている。

課題①富士見公園

『公園本来の緑地や広場が少なく、都心における総合公園としての機能回復が必要』

課題②市民利用施設等公共施設

『老朽化や耐震面などで課題のある施設が多数あり、計画的な施設の更新・再整備が必要』

(2) これまでの計画概要

富士見周辺地区整備基本計画

(平成20年3月)

富士見周辺地区の課題を解決するための基本的な整備方針を定めた。

<整備に関する基本的な考え方>

【整備目標①】 富士見公園の再生

公園本来の機能である緑地や広場の確保に努め、都心における総合公園にふさわしい都市公園としての機能回復を図る

将来像

緑、活気、憩い、ふれあいのある、都心のオアシス・富士見公園

【整備目標②】 スポーツ・文化・レクリエーション活動の拠点機能の強化

市民の利便性向上や安全性の確保に努めるとともに、都心にふさわしいスポーツ・文化・レクリエーション活動の拠点機能の強化を図る

富士見周辺地区整備基本計画に基づく整備の考え方(改訂版)

(平成22年3月)

富士見周辺地区整備実施計画の策定に向け、事業の関連性を踏まえた再編整備の考え方などをとりまとめた。

富士見周辺地区整備実施計画(以下「実施計画」)

(平成23年3月)

公園・各施設の整備推進に向け、公園再生の基本的な考え方、エリア別公園整備方針、各施設の整備の考え方、整備手順などをとりまとめた。

<公園再生の基本的な考え方>

基本計画
における
公園整備の
基本方針

- ①緑地・広場の確保など、憩い、活動できる空間の創出
- ②緑の拠点にふさわしい景観・一体的空間の創出
- ③開放的で緑豊かな空間の創出
- ④回遊性の高い歩行空間の創出
- ⑤安全でゆとりある緑のオープンスペースの創出
- ⑥賑わい機能の創出

+

- ⑦エントランスゾーンの整備
- ⑧プロムナード的空間の整備
- ⑨緑地・広場の段階的な整備

(3) 現在までの主な整備状況と事業を取り巻く変化

ア 現在までの主な整備状況

- スポーツ・文化複合施設(現 スポーツ・文化総合センター)は、弓道場(和弓・洋弓)や教育文化会館の大ホール機能を移転するとともに、整備前の体育館機能と複合化し、平成29年10月に『カルツかわさき』の愛称でオープン
- 川崎競輪場は、メインスタンドの耐震補強工事、コンパクト化に向けた既存施設の除却工事などを行い、平成30年10月に第1段階のコンパクト化が完了し、一部敷地を公園へ返却
- 長方形競技場は、スタンド工事・人工芝張替を行い、平成26年度に第1段階整備が完了

イ 事業を取り巻く状況変化

①県立川崎図書館の移転

・現在の富士見周辺地区にある県立川崎図書館の建物は平成29年12月に休館し、令和元(2019)年より、建物の解体工事に着手

②教育文化会館の老朽化及び教育文化会館大ホールの閉鎖

- ・大ホール機能を備えたスポーツ・文化総合センターがオープンし、教育文化会館の大ホールは、平成30年3月に閉鎖
- ・現在の教育文化会館には、大ホールを除いた市民館機能のみが残る

③川崎区役所移転の緊急性が低下

- ・川崎区役所は、「基本計画」策定当初は、庁舎狭隘などにより移転に向けた取組が課題となっていたが、平成23年度に市税部門がかわさき市税事務所に移転し、庁舎狭隘の問題が一定の解消をされたことから、移転の緊急性が低下
- ・区役所及び支所機能再編に伴う対応は、今後検討

④公園における民間活力導入によるまちの賑わい創出等の取組

- ・平成29年6月に都市公園法が改正され、「都市公園の再生・活性化」に向けた取組をより一層推進する環境が整備される
- ・本市の公園でも、都市公園を一層柔軟に使いこなすため、民間活力導入によるまちの賑わい創出に向けて検討を推進

⑤富士見中学校の生徒数、学級数の増加

- ・富士見中学校は、計画当初(平成20年)と比べ、生徒数が約130名、学級数が4つ増加
- ・計画当初より狭隘な状況にある中学校グラウンドの確保に関して、教育環境の向上の必要性がより一層高まっている

(4) 「富士見周辺地区における公共施設再編の方向性」【平成30年3月】(以下「公共施設再編の方向性」)

これまでの整備状況や事業を取り巻く状況変化を踏まえ、「公共施設再編の方向性」を平成30年3月にとりまとめた。

ア 富士見公園の整備・管理の方向性

- 「基本計画」及び「実施計画」の公園全体のコンセプトは維持
- 公園の整備・管理に民間活力を導入し、まちの賑わい創出や更なる効果的・効率的な公園の整備・管理運営に向けて検討
- 必要な機能や配置、駐車場の必要台数等について再検討

イ 教育文化会館及び県立川崎図書館敷地の活用の方向性

事業を取り巻く状況変化や、富士見周辺地区の課題である公園本来の緑地・広場が少ない状況、富士見中学校の教育環境向上の必要性を踏まえ、以下のとおり整理。

- 市民館・区役所の複合化の計画を見直す
- 富士見の顔」に相応しい活用となる様、多様な活用が可能な市民利用施設の検討を進める
- 市民利用施設と富士見中学校のグラウンド機能の両立を検討

※「骨子」からの主な変更点(新たな時代の都市マネジメントに対応した都市公園等のあり方検討会での最終報告書(国土交通省)の視点を一部追加)

- 公園の多様な「ストック効果をより高め発揮させる」ため、各エリアで検討・整備を進める具体的な取組をとりまとめる
- 「都市公園を一層柔軟に使いこなす」ため、民間活力の導入検討を推進、期待される多様な効果などを整理する
- 総合計画第2期実施計画、第3期実施計画と連携を図るため、概ね10年程度の整備スケジュールをとりまとめる

3. 計画対象地域の整備にあたって

(1) 整備推進の基本的な考え方

富士見周辺地区の課題の解決を図るため、引き続き、「基本計画」からの富士見公園のコンセプト(将来像)や整備目標等を継承し、総合的・一体的な整備を行い、「都心における総合公園にふさわしい富士見公園の再生」と「スポーツ・文化・レクリエーション活動の拠点機能の強化」をめざす。



(2) 計画対象地域の整備の進め方

「整備推進の基本的な考え方」を踏まえ、「富士見周辺地区整備実施計画」で整理した「公園整備の基本方針に基づく整備の進め方」に「富士見周辺地区における公共施設再編の方向性」の内容を補完し、以下のとおり整理。

■計画対象地域の整備の進め方

1. 緑地・広場の確保など、憩い、活動できる空間の創出
 2. 緑の拠点にふさわしい景観・一体的空間の創出
 3. 開放的で緑豊かな空間の創出
 4. 回遊性の高い歩行空間の創出
 5. 安全でゆとりのある緑のオープンスペースの創出
 6. 賑わいの創出と効率的・効果的な管理運営
- 「実施計画」から継承
- 民生活の考え方を付加

・幅広い年齢層が利用しやすい賑わいのある公園空間の整備を推進
・都市公園を一層柔軟に使いこなすため、民間活力の導入を積極的に進め、賑わいを創出するとともに、効率的・効果的な公園の整備・管理運営をめざす。

(3) エリア別整備方針(概要) (「実施計画」では「エントランスゾーン」と「プロムナード」を重点整備エリアとして整理)

「実施計画」で整理した基本的な考え方を踏襲し、事業を取り巻く状況変化を踏まえた新たな考え方や公園の多様な「ストック効果をより高め発揮させる」ための具体的な取組を追加。なお、公園の顔づくりとなる「エントランスゾーン」と「プロムナード」に加え、「富士見の顔」となる恵まれた場所に位置する「富士見中学校北側エリア」を新たに重点整備エリアとして位置付け。

A エントランスゾーン(バスロータリー機能) (「実施計画」の整備方針を継承しつつ、中学校北側エリアとの連携、都市緑化の推進などを追記)

- ◎富士見の顔となり、イベントや交流の場となる多目的広場を整備(景観上の連続性や、一体感のある空間形成に配慮)
- ◎緑に囲まれながら開放感のある広場空間を整備(植栽やベンチ等の公園施設の配置などを検討した上で、都市緑化の取組を一層推進)
- ◎公園と調和し、大規模な集客に対応できるバスロータリー機能を配置(自然と調和、富士見公園全体の魅力向上につながる整備を推進)

B 富士見中学校北側エリア(教育文化会館及び県立川崎図書館敷地)(新規)

- ◎富士見の顔に相応しい活用となるよう、多様な活用が可能な市民利用施設を整備(広く市民利用が可能なオープンスペース機能の確保)
- ◎富士見中学校のグラウンドとしても活用可能な空間とする(生徒数・学級数の増加など、教育環境向上の必要性に対応)
- ◎時間的にシェアすることにより市民利用施設とグラウンド機能を両立(周辺環境や生徒の安全にも十分配慮)

E プロムナード(実施計画の整備方針を継承しつつ、グリーンインフラ等を追記)

- ◎労働会館との調和を図り、一体利用も考慮した広がりのある空間を整備(競輪場コンパクト化後の空間をプロムナードと一体として整備)
 - ◎ジョギングや散歩など、市民が往来する緑豊かな園路・広場を整備(健康的なライフスタイルの提供が実現)
 - ◎緑豊かな憩いと語らいの緑地・広場を整備(自然と調和したグリーンインフラによる手法を取り入れるなど、良好な都市空間を整備)
- 【「ストック効果をより高め発揮させる」ための具体的な取組事例】

日常的な公園機能・附帯施設機能

- ◎多言語対応の案内サインの設置(ユニバーサルデザイン)、シェアサイクルの導入検討

G こども広場

- ◎子育て支援の場、コミュニティを育み、好奇心を満足させる「自由な子供の遊び場」となるような施設を配置

I 市民広場

- ◎一体的な緑地の確保、市民が憩い、語らうことのできる「芝生」を中心とした空間を整備
- ◎来園者がくつろぎ、長時間滞在できるように、周辺にベンチなどの配置を検討

K 富士見球場

- ◎産業遺産を展示するなど、地域の歴史・文化を保存、活用し、将来に伝える空間の整備を推進



4. 市民利用施設等公共施設の整備方針(概要)

壁面緑化などにより都市部におけるヒートアイランド現象の緩和などを図るとともに、緑のある都心のオアシスとなる公園の実現に向けて、施設と緑地等のオープンスペースが一体となったまとまりと開放感のある公園となるように、富士見公園全体としての景観形成に十分配慮。

(1) テニスコート・共用駐車場・児童プール・相撲場

- テニスコートは整備前の12面を維持し、公園北側内で移設して整備することを基本とする
- 共用駐車場は、「実施計画」においてテニスコート下部への多層化を検討することとしていたが、膨大な整備費用が見込まれることから、法的制約などを総合的に判断し、民間活力の導入検討と連携を図りながら、多層化の実現可能性について検討するとともに、円滑な出入庫や富士見通りを与える交通負荷を可能な限り低減するため、南北両側への分割配置も含めて配置計画を検討。(再精査し、全体で300台程度を想定)
- 児童プールは、管理運営コストやシーズン以外での有効活用の可能性などについて、各種イベントなどを通じて検証するとともに、民間活力の導入検討に合わせて再整備について検討
- 相撲場は、公園内で再整備
- 各施設の整備位置・規模等については、利便性、快適性の向上やスポーツ・文化総合センター等との連携等に配慮しながら、詳細な検討を進めるとともに、管理施設や更衣室などの関連施設、カフェなどの飲食施設の設置についても民間活力の導入検討に合わせて詳細に検討

(2) 川崎競輪場

- 多目的な市民利用として、イベントでの利用や市民開放を進め、市民に親しまれるための工夫や、イメージアップ等について、引き続き検討
- 競輪事業の経営体質強化を図りつつ、社会経済環境の変化に適切に対応しながら、まちづくりの視点や競輪事業の長期的展望を視野に入れ、公園と共存・調和する持続的な事業運営等、将来の競輪場のあり方を継続的に検討

(3) 労働会館

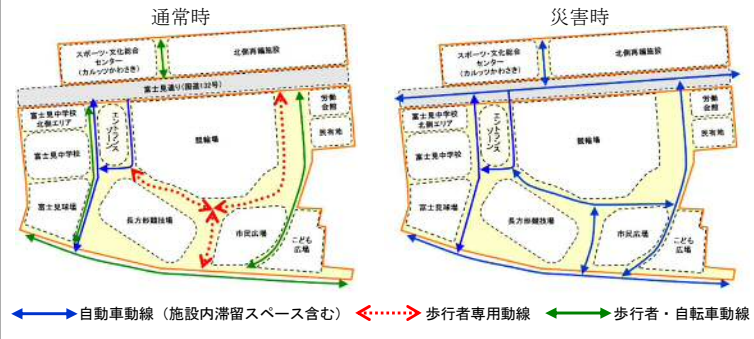
- 労働会館を改修し、教育文化会館を「(仮称)川崎市民館」として同一建物内へ整備
- フロア構成イメージは、労働会館の1階(ホールを除く)から3階までを(仮称)川崎市民館、ホール及び4・5階までを労働会館とし、共通の受付事務所を1階に配置するなど、スペースの有効活用や施設利用の活性化に向けた取組を推進

5. 整備推進にあたっての基本方針（概要）

(1) 動線等の方針

安全かつ円滑な歩行者動線・自動車動線を念頭に置きつつ、民間活力の導入検討と連携を図りながら、動線計画や駐車場・駐輪場の配置等について検討。通常時と災害時の双方を想定した動線検討イメージを以下のとおり整理。

通常時と災害時の双方を想定した動線検討イメージ



(2) 景観形成の方針

川崎市景観計画に基づき、各施設及び公園整備の景観形成の検討を進め、次の項目を中心に整合を図る。

景観軸

- 富士見通りはケヤキを中心とする樹木により、緑の並木の景観軸を形成しており、川崎駅からの軸と、海への軸と連携させながら、景観軸の形成をめざす
- 公園内では、歩行者の回遊空間として重点的に整備を進めていくプロムナードを緑の軸として、富士見公園としての個性ある景観軸の形成をめざす

ゾーニング

- 各施設のゾーンに対応した空間構成やデザインコンセプトを検討するため、「基本計画」における富士見公園のゾーニングに基づき、文化・教育、交流、活気、スポーツ活動、憩いと語り等の機能や性格をデザインの手がかりとして検討

(3) パークマネジメントの導入方針

- 「川崎市 緑の基本計画」で定める『公園等への民間活力導入に向けた方針』などを踏まえ、民間活力の導入を積極的に進め、都市の魅力の向上やまちの賑わいの創出などを図るとともに、効率的・効果的な公園の整備・管理運営をめざす
- 具体的には、民間事業者等にサウンディング型市場調査を行い、公園緑地への民間活力導入の可能性や今後の取組の方向性、最適な手法について検討

<緑の基本計画で定める「公園等への民間活力導入に向けた方針」>

◎公園利用者に質の高い広場空間を提供するために、オープンスペースを有効活用し、賑わいを創出する

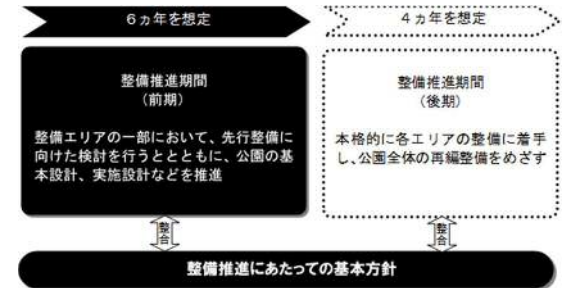
◎公園の魅力を高めることで個性と活力のあるまちづくりを実現する

◎民間のノウハウを活かすことで更なる効率的・効果的な公園の整備・管理運営をめざす

6. 今後の整備の進め方

総合計画第2期実施計画、第3期実施計画と連携を図るため、概ね10年程度の整備スケジュール・手順を以下のとおりまとめた。

- 令和2（2020）～7（2025）年度：「整備推進期間（前期）」
 - 令和8（2026）～11（2029）年度：「整備推進期間（後期）」
 - 財政の平準化と費用対効果の最適化を図り、既存施設の適切な維持管理を行いながら、計画的に再編整備を推進
 - 詳細は、今後、「公園全体としての幅広い民間活力導入や「(仮称)富士見公園再編整備基本計画」の検討状況と連携を図りながら、整理
- ※スケジュールは、整備の進捗状況や事業を取り巻く状況変化に応じて、前後することが想定されることから、前期6ヵ年、後期4ヵ年のサイクルで適切な見直しを行う。



【整備スケジュール】

整備エリア	現状 令和元(2019) 年度	整備推進期間(前期)						整備推進期間(後期)					
		第2期実施計画期間 令和2(2020) 年度		第3期実施計画期間 令和4(2022) 年度		第3期実施計画期間 令和5(2023) 年度		令和6(2024) 年度		令和7(2025) 年度		次期総合計画期間 令和8(2026)～令和11(2029)年度	
A エントランスゾーン		●(仮称)富士見公園再編整備基本計画の策定		●一部先行整備に向けた検討				●実施設計	●整備工事				
B 教育文化会館敷地	●基本計画	●(仮称)富士見公園再編整備基本計画の策定	●教育文化会館を解体利用。労働会館の実施設計及び改修工事に合わせて、教育文化会館の解体時期を検討。(未定)⇒市民利用施設の整備工事に着手。										
B 県立川崎図書館敷地	●解体工事	●(仮称)富士見公園再編整備基本計画の策定	●教育文化会館を解体後(未定)、市民利用施設の整備工事に着手。										
C 公園北側エリア		●(仮称)富士見公園再編整備基本計画の策定			●基本設計	●実施設計							●整備工事
D イチョウ並木		●(仮称)富士見公園再編整備基本計画の策定		●一部先行整備に向けた検討	●基本設計	●実施設計	●整備工事						
E プロムナード		●(仮称)富士見公園再編整備基本計画の策定		●一部先行整備に向けた検討	●基本設計	●実施設計	●整備工事						
F コミュニティガーデン		●(仮称)富士見公園再編整備基本計画の策定		●一部先行整備に向けた検討	●基本設計	●実施設計				●整備工事			
G こども広場	●一部暫定整備	●(仮称)富士見公園再編整備基本計画の策定			●基本設計	●実施設計							●整備工事
H 労働会館南側開有地	●公園用地の必要性の検討					●検討結果を踏まえた取組の推進							
I 市民広場		●(仮称)富士見公園再編整備基本計画の策定		●一部先行整備に向けた検討	●基本設計	●実施設計							●整備工事
J 長方形競技場周辺		●(仮称)富士見公園再編整備基本計画の策定	●照明塔、電光掲示板等の取除		●基本設計	●実施設計							●整備工事
K 富士見球場		●(仮称)富士見公園再編整備基本計画の策定			●基本設計	●実施設計							●整備工事
一 北側再編施設		●(仮称)富士見公園再編整備基本計画の策定	●南側公園事務所解体		●基本設計	●実施設計							●整備工事
一 都市計画手続等		●富士見公園区域のあり方検討											

富士見周辺地区整備推進計画（案）

令和元（2019）年11月
川崎市

目次

1	はじめに	1
2	「整備推進計画」の概要	2
	(1) 富士見周辺地区の範囲	2
	(2) 川崎市都市計画マスタープラン川崎区構想での位置づけ	2
	(3) 「整備推進計画」の対象地域	4
	(4) 「整備推進計画」の位置づけ	6
3	これまでの経緯	7
	(1) 「基本計画」策定時の富士見周辺地区の課題	7
	(2) これまでの計画概要	8
	(3) 現在までの主な整備状況と事業を取り巻く状況変化	22
	(4) 富士見周辺地区における公共施設再編の方向性【平成30年3月】	26
4	計画対象地域の整備にあたって	29
	(1) 整備推進の基本的な考え方	29
	(2) 計画対象地域の整備の進め方	30
	(3) エリア別整備方針	31
5	市民利用施設等公共施設の整備方針	41
	(1) 施設の再編整備に向けた基本的な考え方	41
	(2) 各施設の整備方針	41
6	整備推進にあたっての基本方針	45
	(1) 公園区域等の方針	45
	(2) 動線等の方針	45
	(3) 景観形成の方針	47
	(4) 防災機能の導入方針	48
	(5) パークマネジメントの導入方針	50
7	今後の整備の進め方	51

1 はじめに

富士見周辺地区には、富士見公園を中心に様々な市民利用施設が集積しており、市民の憩いの場やスポーツ・文化・レクリエーション活動の拠点となっていますが、公園本来の緑地や広場が少なく、施設の老朽化などの課題もあり、都心における総合公園としての機能回復や、スポーツ・文化・レクリエーション活動の拠点機能強化が求められています。

本市では、富士見周辺地区の課題解決に向けた具体的な道筋を示すものとして平成20年3月に「富士見周辺地区整備基本計画」をとりまとめました。

また、平成22年3月、この基本計画に基づき、各施設の整備の考え方を中心に当面整備すべき内容について検討を行い、市民意見募集を実施したうえで市民や関係団体等の方々から幅広く御意見を伺った結果を反映した「富士見周辺地区整備基本計画に基づく整備の考え方（改訂版）」をとりまとめました。

さらに、平成23年3月、公園・各施設の段階的な整備の推進に向けて、これらの計画に基づき、また、タウンミーティングやパブリックコメント手続を経て策定する「川崎再生フロンティアプラン第3期実行計画」との調整を行い、公園区域全体の整備の進め方、各施設の整備方針、整備手順など今後の整備の進め方を「富士見周辺地区整備実施計画」としてとりまとめました。

このように、富士見周辺地区の課題解決に向け、段階的に計画をとりまとめ、概ね10年程度で再編整備を行うことをめざし、取組を進めてきましたが、これまでの計画策定から一定期間が経過し、各整備等の進捗状況や事業を取り巻く状況に様々な変化が生じたことから、平成30年3月に「富士見周辺地区における公共施設再編の方向性」をとりまとめ、「市民館・区役所の複合化の計画を見直す」など、これまでの方向性を一部見直しました。

このたび、平成30年3月の方向性の見直しを踏まえ、これまでの「富士見周辺地区整備基本計画」～「富士見周辺地区整備実施計画」までの内容を統合・再整理するとともに、今後の再編整備の方針と概ね10年程度のスケジュール等について、「富士見周辺地区整備推進計画（案）」としてとりまとめましたので、市民説明会やパブリックコメント手続を通じて、広く市民の皆様からの御意見を募集いたします。

今後、市民の皆様からいただいた御意見を踏まえ、(案)に更なる検討・調整を加え、令和2（2020）年3月には、「富士見周辺地区整備推進計画」（以下「整備推進計画」といいます。）を策定・公表していく予定です。

2 「整備推進計画」の概要

(1) 富士見周辺地区の範囲

富士見周辺地区とは、国道15号、国道409号、富士見鶴見駅線、川崎駅扇町線（新川通り）の4つの幹線道路で囲まれた約93haの区域であり、富士見1、2丁目、榎町、宮前町、新川通、境町、大島1丁目が含まれています。



富士見周辺地区の範囲

(2) 川崎市都市計画マスタープラン川崎区構想での位置づけ

川崎区のまちづくりに関する総合的な方向性を示した「川崎市都市計画マスタープラン川崎区構想（平成19年3月）」において、富士見周辺地区については、次のような方向性が示されています。

〔川崎駅周辺地区の活性化と魅力の向上をめざして〕

- ・富士見公園周辺地区は、川崎駅周辺地区との連携を強め、まちの回遊性を高めるとともに、スポーツやレクリエーションなど、市民が自由時間を豊かに過ごすことのできる場として位置づけ、富士見公園の再整備や公共公益施設の再配置・再整備を検討します。
- ・富士見公園等を核にして、老朽化した分譲マンション団地の建替え等、居住環境の改善と優良な都市型住宅の形成を図ります。

〔富士見公園や身近な公園の充実をめざして〕

- ・総合公園である富士見公園は、富士見公園周辺のまちづくりと連携しながら、都市のオアシス空間として、緑豊かなくつろぎの場やスポーツ・レクリエーション活動の場を確保し、「富士見周辺地区整備基本計画」に基づく公園機能の再整備に努めます。

【川崎市都市計画マスタープラン川崎区構想における都市構造方針図】



(3) 「整備推進計画」の対象地域

富士見周辺地区の約 93ha のうち、富士見公園と富士見中学校、スポーツ・文化総合センターなどから成る約 18ha の地区は、大規模な富士見公園に加えて、様々な市民利用施設が集積した富士見周辺地区の中心となる地区です。【「整備推進計画」での計画対象地域図】を参照）

この地区は、富士見周辺地区全体のまちづくりの根幹をなす地区となるため、富士見周辺地区整備基本計画（以下「基本計画」といいます。）では「重点整備地区」と位置付けています。

この「重点整備地区」について、総合的・一体的な整備に市が先導的に取り組むことで、富士見周辺地区全体のまちづくりに波及効果を及ぼすことが期待されます。

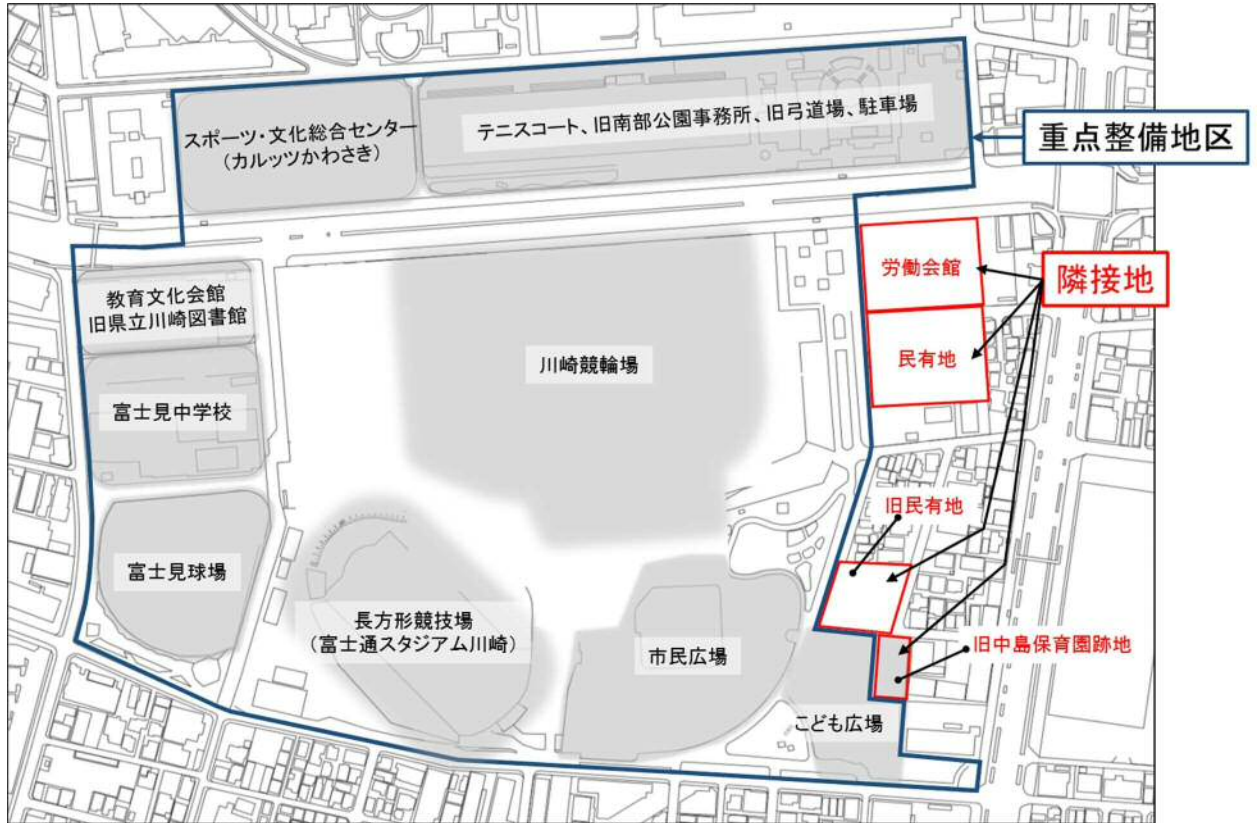
また、川崎区の都市構造の視点からも、広域的なまちづくりの牽引役となることも期待されます。

そこで、この「整備推進計画」では、「重点整備地区」を中心に、総合的・一体的な整備を進める上で必要な隣接地（旧中島保育園跡地や民有地など）を含めた合計約 20.6ha を対象に再編整備の方針を定めます。



平成29年度 富士見周辺地区南方向から撮影

【「整備推進計画」での計画対象地域図】

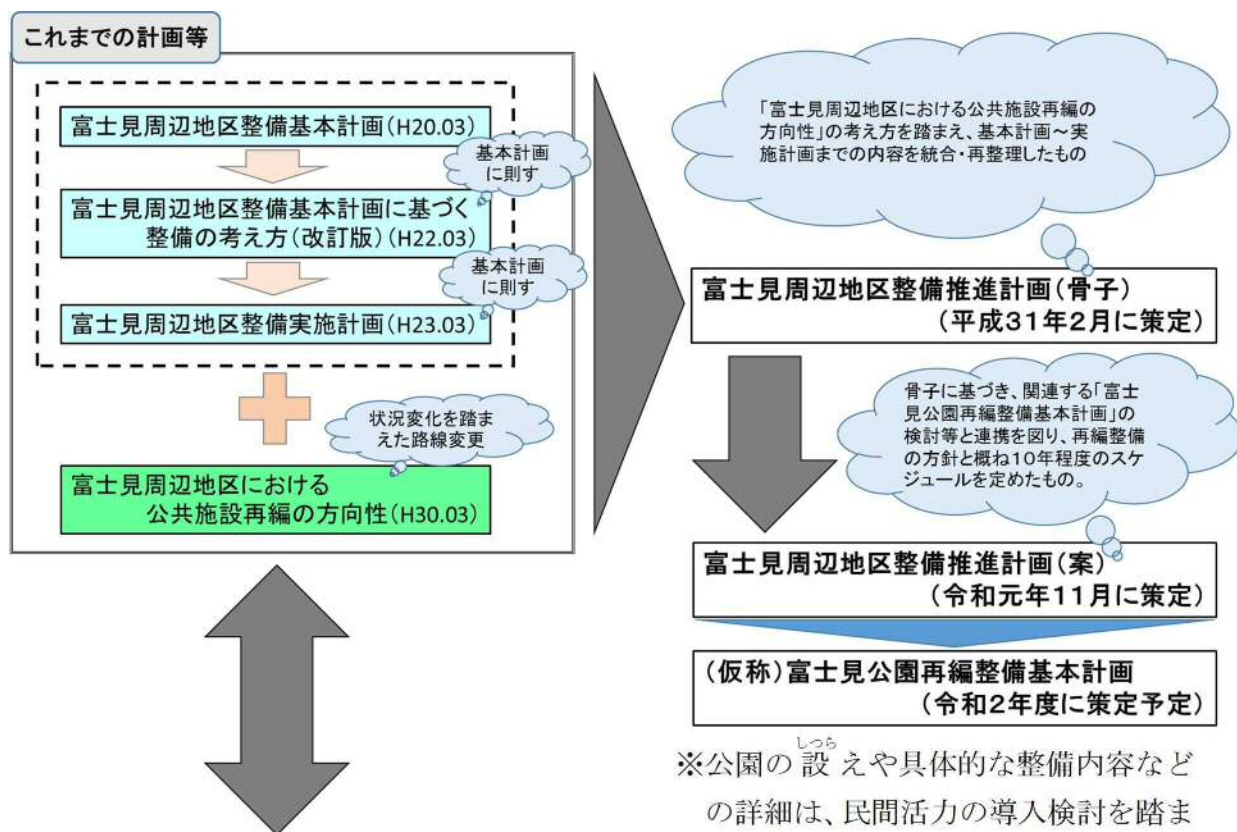


※「基本計画」等での計画対象地域（重点整備地区の隣接地）のうち、整備済の市立川崎高等学校や川崎区道路公園センターについては、今回の計画対象地域から除外し、市民館機能の移転により今後改修予定のある労働会館を計画対象地域に新たに編入しました。

(4) 「整備推進計画」の位置づけ

富士見周辺地区では、平成20年3月の「基本計画」策定以降、段階的に計画等を策定してきましたが、「富士見周辺地区における公共施設再編の方向性」を踏まえ、これまでの計画等を統合・再整理し、平成31年2月に「富士見周辺地区整備推進計画（骨子）」（以下「骨子」といいます。）として定めています。

この整備計画は、「骨子」に基づき、引き続き検討を進めるとともに、関連する「（仮称）富士見公園再編整備基本計画」との連携を図りつつ、再編整備の方針と概ね10年程度の整備スケジュールを定めるものです。



※公園の^{しつら}設えや具体的な整備内容などの詳細は、民間活力の導入検討を踏まえ、令和2（2020）年度に策定予定の「（仮称）富士見公園再編整備基本計画」の中で定めることとします。

3 これまでの経緯

(1) 「基本計画」策定時の富士見周辺地区の課題

計画対象地域には、富士見公園や、川崎競輪場、教育文化会館、県立川崎図書館（現在は移転し、建物は解体予定）、川崎市体育館（現在は、再整備し『カルッツかわさき』としてオープン）、富士見中学校などの周辺市民利用施設等公共施設があり、それぞれ次のような課題がありました。

課題①富士見公園『公園本来の緑地や広場が少なく、都心における総合公園としての機能回復が必要』

富士見公園内には様々な市民利用施設が立地しており、市民の様々な活動の拠点となっています。

一方で、多数の市民利用施設に加え、本来、都市公園施設になじまない競輪場が立地していることで、都市公園本来の緑地や広場が少なく、都心における総合公園としての機能回復が求められています。

また、川崎都心と多摩川、臨海部とを結ぶ軸の交点に位置することから、川崎駅周辺における拠点機能の強化や多摩川沿いの土地利用転換などを視野に入れた、景観の形成が求められています。

課題②市民利用施設等公共施設『老朽化や耐震面などで課題のある施設が多数あり、計画的な施設の更新・再整備が必要』

富士見周辺地区の重点整備地区及びその周辺に立地する市民利用施設には、老朽化や耐震面などで課題のある施設が多数ありますので、計画的な施設の更新・再整備が必要となっています。

また、富士見公園に隣接する富士見中学校はグラウンド機能が不足しており、教育環境の向上を図るため、運動の場を確保する対策を優先的に進めていく必要があります。

(2) これまでの計画概要

ア 富士見周辺地区整備基本計画【平成20年3月】

富士見周辺地区には、富士見公園を中心に様々な市民利用施設が集積しており、市民の憩いの場やスポーツ・文化・レクリエーション活動の拠点となっていますが、公園本来の緑地や広場が少ないことや市民利用施設の老朽化への対応などが課題となっていました。

そこで、富士見公園や周辺市民利用施設の今後のあり方を踏まえた総合的・一体的な整備に向けて計画の策定を「川崎再生フロンティアプラン」に位置づけるとともに、「川崎市都市計画マスタープラン川崎区構想」に富士見公園の再整備に向けた基本的な方向性を示したうえで、富士見周辺地区の課題の解決に向けた具体的な道筋を示すものとして、基本的な整備方針を定めた「基本計画」を策定しています。

■整備目標

このような課題の解決を図るため、「基本計画」における「整備に関する基本的な考え方」として、次の2つの整備目標を定めています。

<整備に関する基本的な考え方>

【整備目標①】 富士見公園の再生

公園本来の機能である緑地や広場の確保に努め、都心における総合公園にふさわしい都市公園としての機能回復を図ります。

【整備目標②】 スポーツ・文化・レクリエーション活動の拠点機能の強化

市民利用施設については、市民の利便性の向上や安全性の確保に努めるとともに、都心にふさわしいスポーツ・文化・レクリエーション活動の拠点機能の強化を図ります。

■整備目標の実現に向けたゾーニングの考え方

「基本計画」における整備目標の実現に向けたゾーニングの考え方として、地域を3つのゾーンに区分し、これらのゾーンを2つの軸で川崎都心や臨海部・多摩川へと結ぶことにより、各々が相互に響き合う魅力あふれる地域形成をめざすこととしています。

<3つのゾーン>

○ 文化・教育・公共施設ゾーン：

市民や子ども達の文化・教育活動のための機能や、官公庁等が集積するゾーン

○ スポーツ・レジャーゾーン：

市民のためのスポーツ・レジャー機能が集積するゾーン

○ 広場・緑地ゾーン：

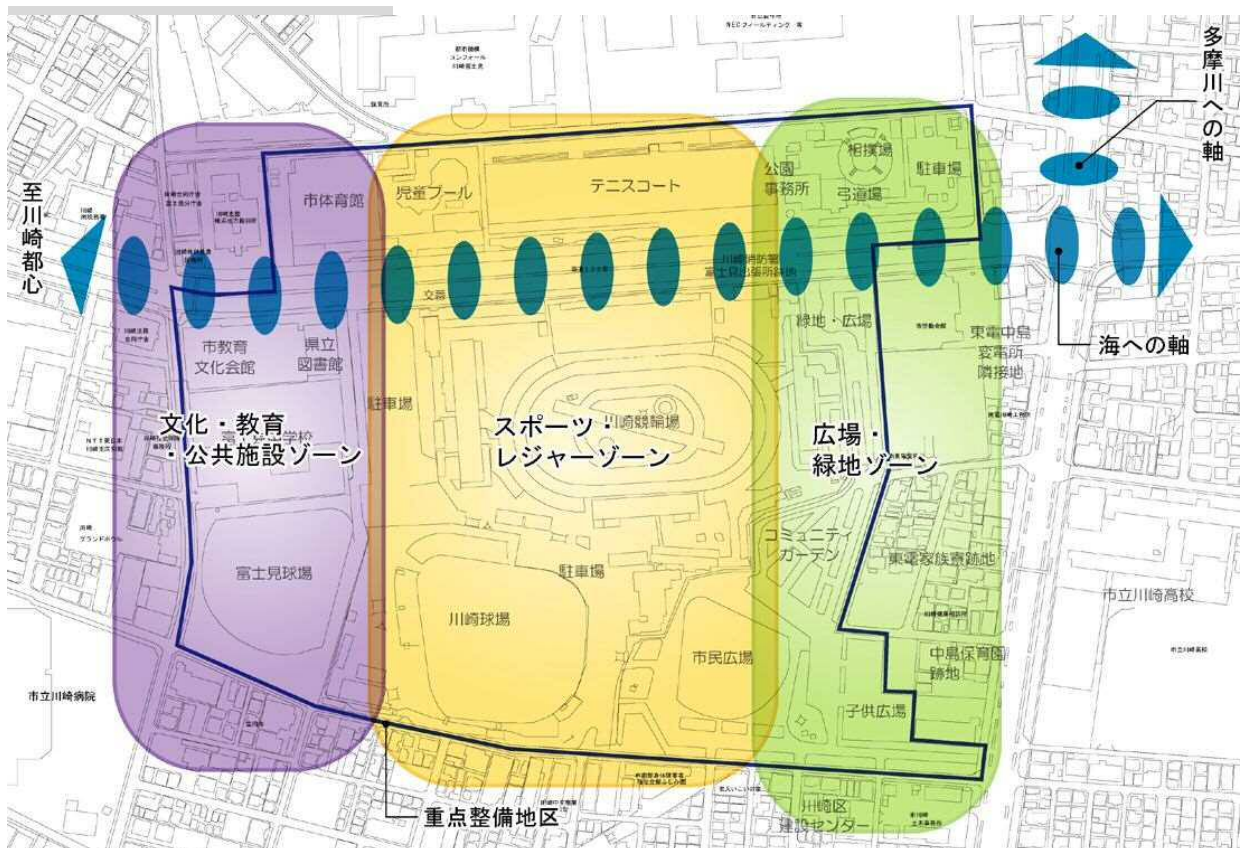
市民の憩いの場となる、広場や緑地を中心とするゾーン

<2つの軸>

○ 海への軸

○ 多摩川への軸

【整備目標の実現に向けたゾーニングの考え方（平成20年3月）】



■整備に向けた基本方針

「基本計画」では、「①富士見公園の再生」と「②スポーツ・文化・レクリエーション活動の拠点機能の強化」という2つの整備目標に対応し、「富士見公園」と「市民利用施設等公共施設」について、整備に向けた基本方針を定めています。

整備目標①「富士見公園の再生」については、将来像として「緑、活気、憩い、ふれあいのある、都心のオアシス・富士見公園」を掲げ、富士見公園の再生に向けた基本方向と公園整備の基本方針を定めています。基本方針では、6つの整備方針、富士見公園のゾーニングを含めた機能配置の考え方や動線確保の考え方を示しています。

【整備目標①】 富士見公園の再生

将来像 緑、活気、憩い、ふれあいのある、
都心のオアシス・富士見公園

富士見公園の再生に向けた基本方向

- ①魅力ある緑のオープンスペースの創出
- ②競輪場のコンパクト化と多目的化
- ③公園区域の競輪場除外・隣接地の編入と公園機能の維持・向上

公園整備の基本方針

●整備方針

- ①緑地・広場の確保など、憩い、活動できる空間の創出
- ②緑の拠点にふさわしい景観・一体的空間の創出
- ③開放的で緑豊かな空間の創出
- ④回遊性の高い歩行空間の創出
- ⑤安全でゆとりある緑のオープンスペースの創出
- ⑥賑わい機能の創出

●機能配置の考え方

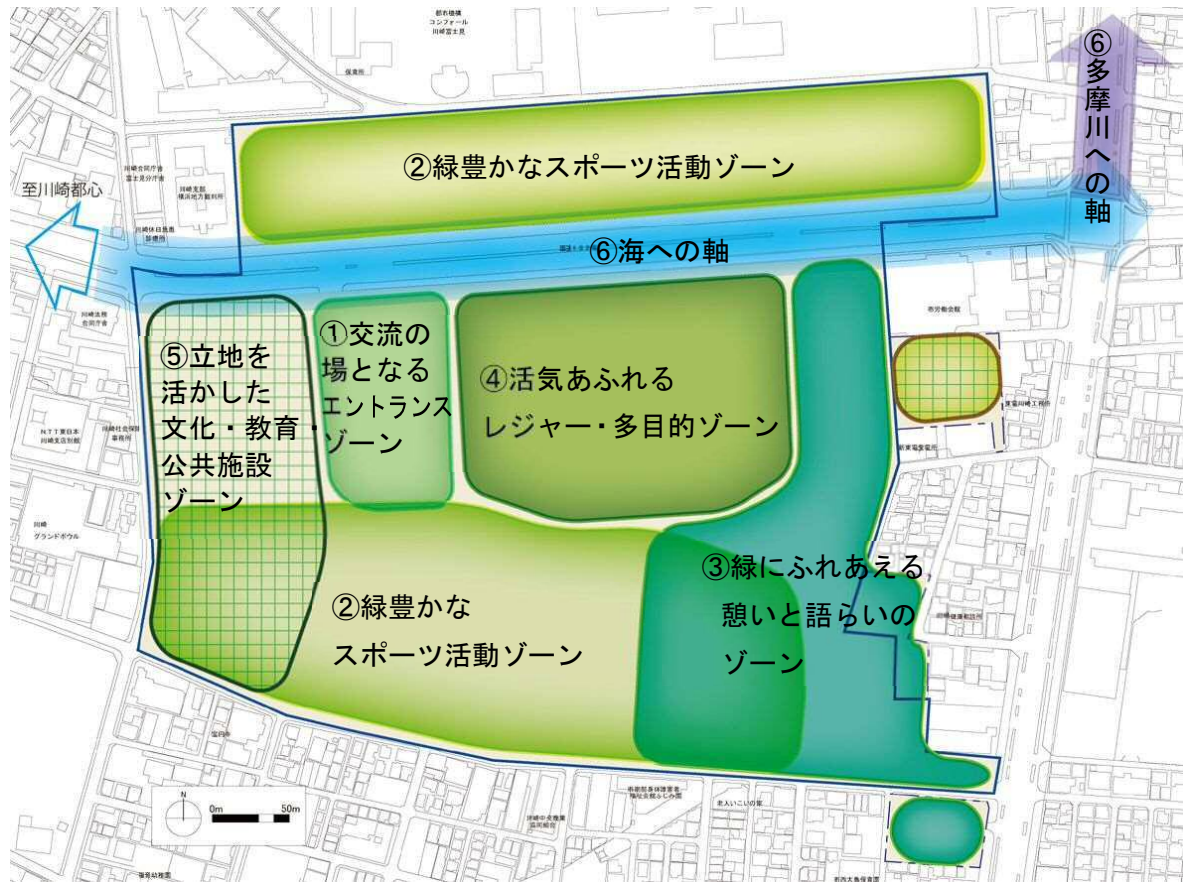
整備目標の実現に向けたゾーニングの考え方を踏まえ、機能や性格の異なるゾーンに区分（【富士見公園のゾーニング図】を参照）

●動線確保の考え方

機能配置の考え方を踏まえ、公園内の動線の考え方を整理

- 歩行者動線 施設を連絡し、かつ、公園内を回遊できる園路計画を検討
歩行者の安全性を確保するため、原則として歩行者専用を基本
- 自転車動線 歩行者の安全を確保しつつ公園を連絡する動線を確保
- 自動車動線 大型車の利用に配慮した動線を確保
管理用車両、搬入車両の動線は、安全性や利便性に配慮して検討

【富士見公園のゾーニング図（平成20年3月）】



①交流の場となるエントランスゾーン

富士見公園の玄関口にふさわしい景観形成と安全に配慮した公園への交通動線を確保するとともに、公園来訪者等がくつろげ、交流の場として、多目的なエントランスゾーンの整備をめざす。

②緑豊かなスポーツ活動ゾーン

スポーツ機能の充実を図るとともに、施設の緑化や施設周辺の緑地・広場の整備など、緑豊かな空間の創出をめざす。

③緑にふれあえる憩いと語らいのゾーン

新たに創出される用地も活用し、緑地や広場の拡充をめざす。

④活気あふれるレジャー・多目的ゾーン

公園と調和した、多目的な利用が可能となる活気あふれる競輪場をめざす。

⑤立地を活かした文化・教育・公共施設ゾーン

市民館や富士見中学校の学校開放により、市民の文化活動の拠点化をめざす。
市民のためのスポーツ施設を学校教育の場としても有効活用することをめざす。

⑥海への軸、多摩川への軸

沿道の緑の充実など、川崎都心から公園へのメインルートにふさわしい景観の形成をめざす。

整備目標②「スポーツ・文化・レクリエーション活動の拠点機能の強化」については、各施設の再編整備の基本的な考え方や再編整備の方向を定めています。

【整備目標②】スポーツ・文化・レクリエーション活動の拠点機能の強化

■再編整備の基本的な考え方

- ・更新・再整備にあたって、機能の見直しや、複合化などによる再編を実施
- ・都市公園法に基づく都市公園区域、都市計画法に基づく都市計画公園区域や用途地域等の変更について検討
- ・塀等の撤去や施設外観の配慮、屋上・壁面緑化など公園との一体性確保の検討
- ・公園利用者へのサービス機能の提供について検討

■各施設の再編整備の方向

市民利用施設等公共施設	再編整備の方向
川崎競輪場	公園との調和に配慮した上で、既存バンクを活用し現位置でコンパクト化するとともに、できる限り多目的な活用ができることをめざす。
富士見中学校	教育環境の向上を図ることは、最重要課題の一つであることから、実現可能性の高い方策を早期に行い、実態的に教育環境の向上を図ることをはじめとして、段階的な対応を図る。 第1段階：富士見球場の利用枠の拡大による対応（土日の利用枠の拡大など） 第2段階：グラウンド機能の充実に向けた検討（北側校地の有効活用の検討） 第3段階：将来的なグラウンド確保に向けた検討（状況変化に応じて検討を行い、運動場の確保に努める）
川崎球場	アメリカンフットボールやフットサル等のスポーツが開催可能な、観覧席のある長方形競技場として整備する。
教育文化会館	立地の良さを活用し、教育文化会館の市民館機能と、庁舎狭隘など課題のある川崎区役所を基本に複合化を図る。
県立川崎図書館	県立川崎図書館については、基本計画に基づく整備と連携が図れるよう県と調整を図る。
川崎市体育館	体育館機能と教育文化会館の大ホール機能を併せ持つ市民アリーナとして改築し、その際公園北側の児童プールなど、合築可能な施設の複合化を図る。
その他施設	再編整備の方向
駐車場・駐輪場	路上駐車等の迷惑行為が行われないよう、富士見公園及び周辺市民利用施設において必要な駐車場・駐輪場を確保する。

※その他施設については、公園区域に関連するものを記載しています。

【計画対象地域の現況図（平成20年3月）】



■実現に向けた基本方針

富士見周辺地区整備を実現するためには、幅広い関係者との調整、大規模な再編整備で想定される事業費の財源調整等により、整備完了までには長い年月が必要となります。

そこで、公園施設と周辺施設の計画の詳細化、実現方策の明示に向けて、整備スケジュールを含めた「実施計画」を立案し、概ね10年程度で再編整備を行うことをめざすこととしています。

イ 富士見周辺地区整備基本計画に基づく整備の考え方(改訂版)【平成22年3月】

「基本計画」に基づき、富士見周辺地区整備実施計画の策定に向けた取組を進め、その取組状況を平成21年12月に「富士見周辺地区整備基本計画に基づく整備の考え方」としてとりまとめ、市民の皆様からの御意見を反映した結果を、富士見周辺地区整備基本計画に基づく整備の考え方(改訂版)(以下「整備の考え方(改訂版)」)といたします。)としてとりまとめています。

「整備の考え方(改訂版)」でとりまとめた、整備に向けた基本的な考え方と基本配置(イメージ図)は次のとおりです。

■整備に向けた基本的な考え方

「整備の考え方(改訂版)」では、整備に向けた基本的な考え方として、周辺のまちづくりとの連携など、今後配慮していくべきことを踏まえながら段階的な整備を図るとともに、再編整備を計画的に推進するため、事業の関連性があり、調整を図る必要があるグループとして、富士見公園のエリアを「Aグループ」と「Bグループ」に分け、再編整備の検討を進めることとしています。

整備に向けた基本的な考え方

●広域拠点として再整備を進めている川崎駅周辺の商業・業務機能の集積、大型商業施設や商店街を中心とした賑わいや回遊性、多摩川などの地域資源、羽田空港の再拡張・国際化を踏まえた川崎臨海部活性化など、周辺のまちづくりと連携しながら計画を推進していく必要がある。

●市民利用施設等公共施設の整備にあたっては、自然エネルギーや再生可能エネルギーなどの新たな技術による地球環境への配慮、災害時における広域避難場所としての位置づけを踏まえた防災機能の充実、さらには今後急速に進展する高齢社会への対応など、社会経済環境等の変化に伴う新たな課題に適切に対応していく必要がある。

●施設整備等の機会等をとらえ、市民に親しまれるような施設の愛称の検討など、公園や施設のイメージアップにつながるような取組を行っていく必要がある。

●計画推進にあたっては、社会経済環境等の変化に適切に対応しながら、まちづくりの視点や各事業の長期的展望を踏まえた検討を継続的に行っていく必要がある。

再編整備の計画的な推進

公園の再生

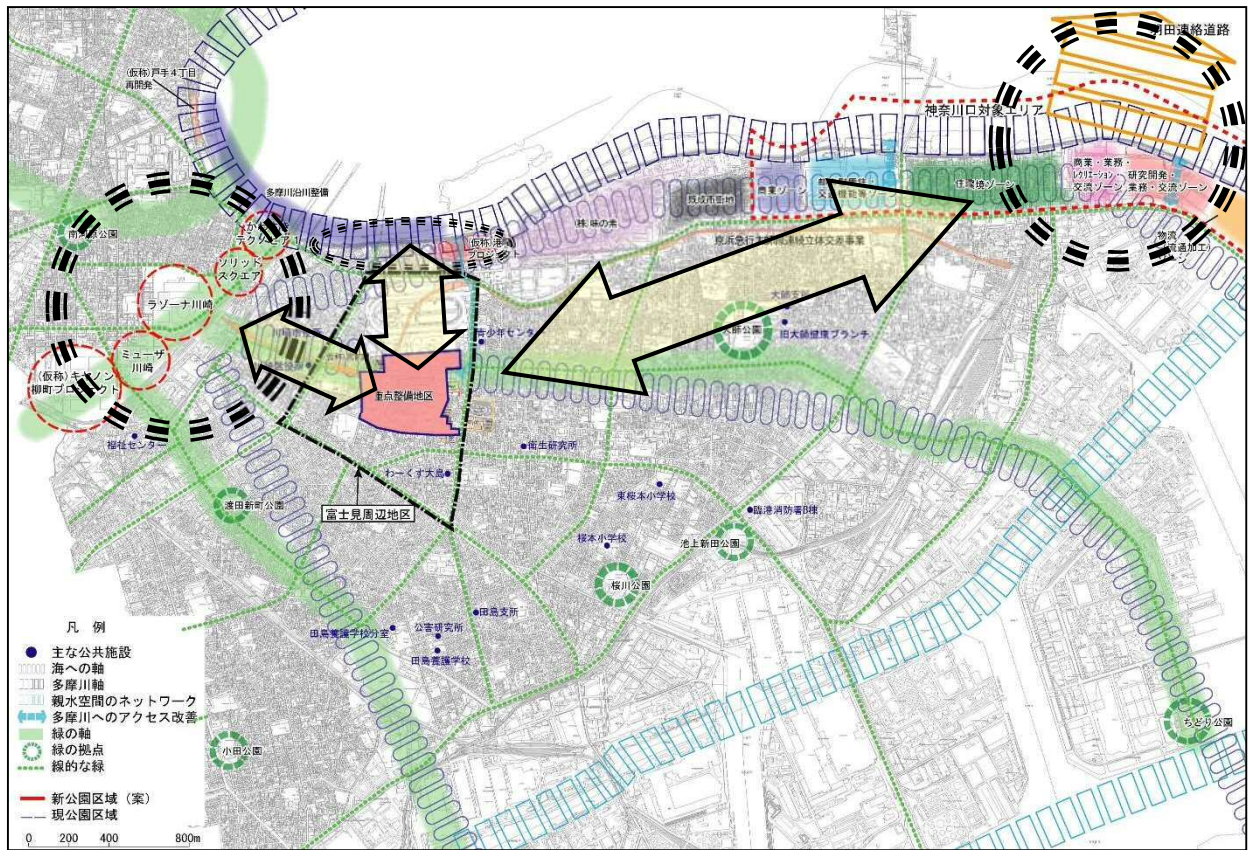
施設の再編整備

事業の関連性・調整

Aグループ

Bグループ

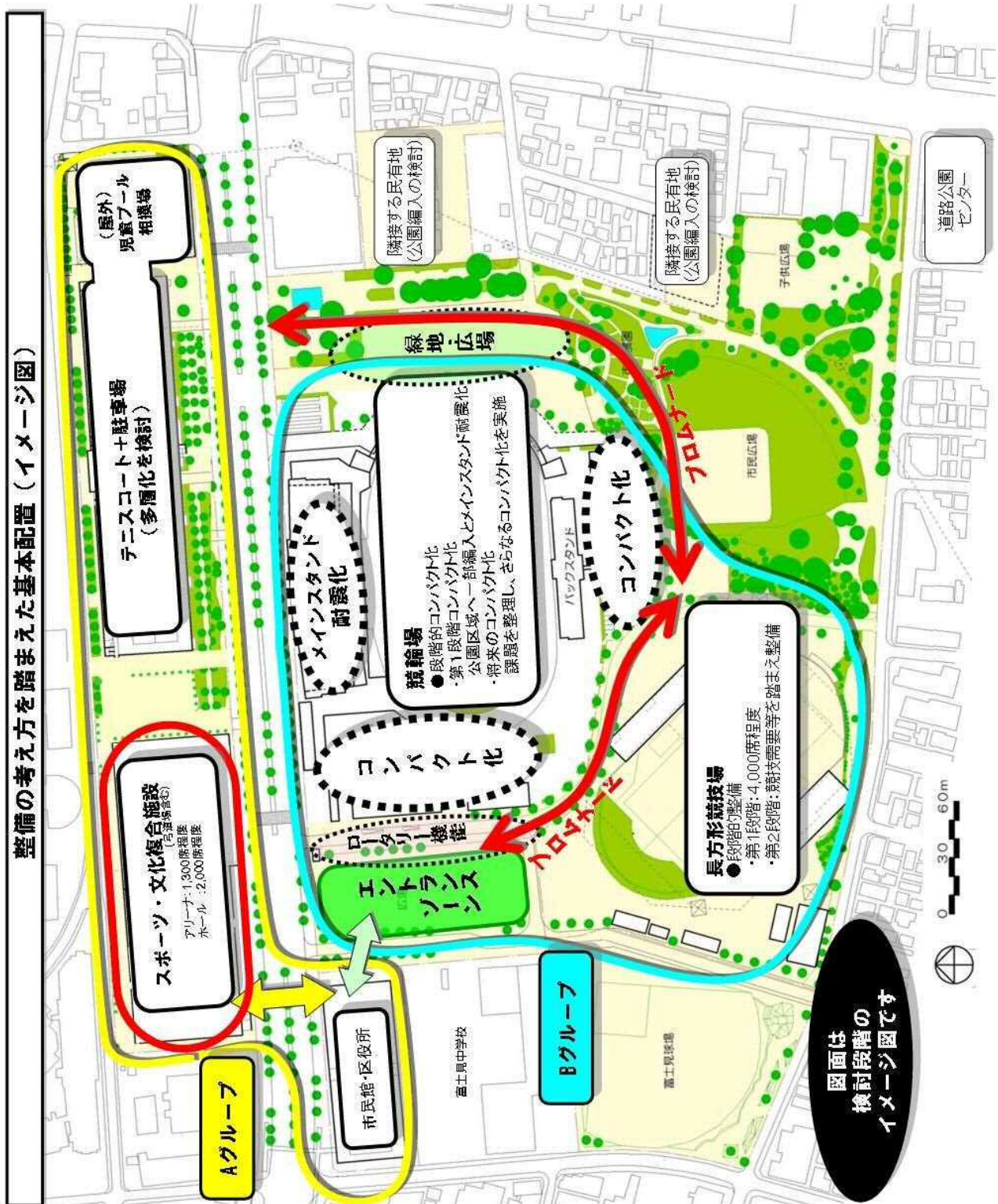
※整備の考え方を踏まえた基本配置(イメージ図)参照



【周辺のまちづくりと連携した検討イメージ図】

■整備の考え方を踏まえた基本配置（イメージ図）

「整備の考え方（改訂版）」では、整備に向けた基本的な考え方を踏まえ、基本配置をイメージ図としてとりまとめました。



ウ 富士見周辺地区整備実施計画【平成23年3月】

公園・各施設の段階的な整備の推進に向け、「基本計画」、「整備の考え方（改訂版）」に基づき、また、「川崎再生フロンティアプラン第3期実行計画」との調整を行い、公園再生の基本的な考え方、エリア別公園整備方針、各施設の整備の考え方、整備手順などをとりまとめ、概ね10年程度の整備スケジュールを示し、再編整備を行うことを目指すものとして、「富士見周辺地区整備実施計画」（以下「実施計画」といいます。）を策定し、現在まで、より具体的な事業に取り組んでいます。

「実施計画」でとりまとめた、公園再生の基本的な考え方、整備に向けた基本的な考え方と基本配置（イメージ図）は次のとおりです。

■公園再生の基本的な考え方

「実施計画」では、公園再生の基本的な考え方として、川崎駅東口周辺の回遊性と地域経済振興にも配慮しながら、公園の顔づくりとなるエントランスゾーンの整備とプロムナード的空間の整備を重点的に行い、各エリアの緑地・広場を連携させながら段階的な整備を行うこととしています。

<公園再生の基本的な考え方>

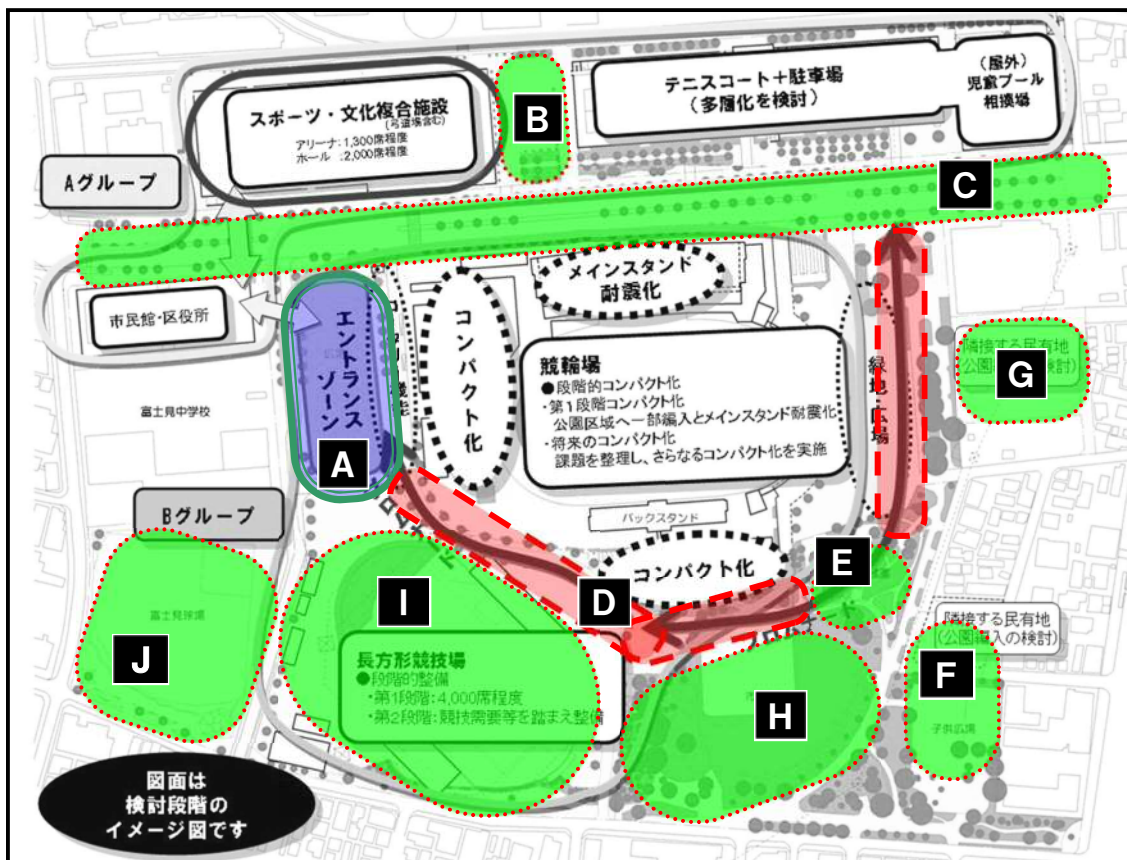
- 基本計画
における
公園整備の
基本方針
- ①緑地・広場の確保など、憩い、活動できる空間の創出
 - ②緑の拠点にふさわしい景観・一体的空間の創出
 - ③開放的で緑豊かな空間の創出
 - ④回遊性の高い歩行空間の創出
 - ⑤安全でゆとりある緑のオープンスペースの創出
 - ⑥賑わい機能の創出



- ◎エントランスゾーンの整備
- ◎プロムナード的空間の整備
- ◎緑地・広場の段階的な整備

■エリア別公園整備方針

「実施計画」では、「整備の考え方(改訂版)」における「基本配置(イメージ図)」を将来の公園空間イメージとして設定し、公園再生に向けて段階的な整備を進めていく上で重要な場所となる部分を**A～J**のとおり「エリア」として位置付け、各エリア別の公園整備方針を定めています。この中で、「公園再生の基本的な考え方」において重点的な整備を行うこととした、公園の顔づくりとなる「エントランスゾーンの整備」と「プロムナード的空間の整備」については、重点整備エリアとして位置付け、公園再生に向けた中長期的な整備手順を検討する際に、公園整備における基幹的な事業となるよう、市民利用施設等公共施設の再編と調整を図りながら、全体の整備を誘導していくこととしています。



番号	図の凡例(各エリア)
A	エントランスゾーン(バスロータリー機能)【重点整備エリア】交流の場となる空間の整備
B	公園北側広場
C	イチョウ並木
D	プロムナード(周遊園路)・南側緑地・広場【重点整備エリア】回遊性のある空間の整備
E	コミュニティガーデン
F	子ども広場
G	運動広場
H	市民広場
I	長方形競技場周辺
J	富士見球場

富士見周辺地区整備実施計画でのエリア別公園整備方針（概要）

番号	エリア	整備方針
A	エントランスゾーン	◎富士見公園の新たな顔となり、イベントや交流の場となる多目的広場を整備する。 ◎緑に囲まれながら開放感のある広場空間を整備する。 ◎公園と調和し、大規模な集客に対応できるバスロータリー機能を配置する。
B	公園北側広場	◎市民が様々に利用できる緑に囲まれた多目的空間を整備する。 ◎スポーツ・文化複合施設、公園施設との調和を図りながら整備を推進する。 ◎イベント開催や緊急時等の大型車両停車スペースを確保する。
C	イチョウ並木	◎整然と樹木の並んだ景観軸の形成をめざして整備を進める。
D	プロムナード（周遊園路）・南側緑地・広場	◎ジョギングや散歩など、市民が往来する緑豊かな園路・広場を整備する。 ◎緑豊かな憩いと語らいの緑地・広場を整備する ◎プロムナードの象徴となるシンボルツリーを囲む広場を整備する。
E	コミュニティガーデン	◎地域コミュニティづくりの拠点施設として維持・整備していく。
F	こども広場	◎親子で楽しむことのできる広場として維持・整備していく。
G	運動広場	◎富士見中学校の利用状況と調整を図りながら、市民が利用できる運動広場を整備する。
H	市民広場	◎市民が憩い、語らうことのできる広々とした芝生の広場として維持・整備する。
I	長方形競技場周辺	◎周囲に緑を配置したスポーツ活動の拠点となる賑わい空間を整備する。
J	富士見球場	◎富士見中学校の教育環境の向上と連携した野球場をめざす。

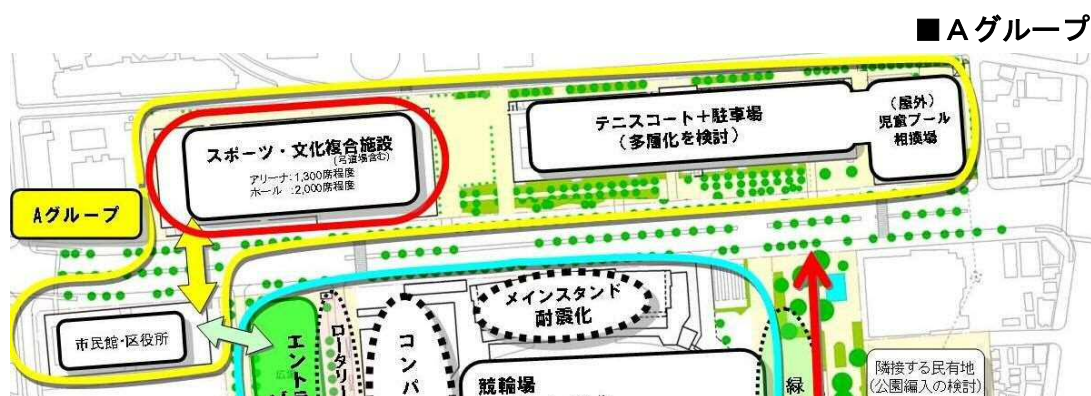
■市民利用施設等公共施設の整備方針

「実施計画」では、再編整備を計画的に推進するため、事業の関連性があり、調整を図る必要があるグループとして、富士見公園のエリアを「Aグループ」と「Bグループ」に分け、再編整備を進めています。

なお、Aグループについては、施設の老朽化や教育文化会館大ホール代替機能への対応に配慮する必要があることなどから「スポーツ・文化複合施設」を優先的に行うこととし、Bグループについては、エントランスゾーンやプロムナード等の公園再生に向けた取組を着実に推進する必要があることなどから「川崎競輪場」や「長方形競技場」の段階的整備を優先して行うこととしています。

富士見周辺地区整備実施計画での市民利用施設等公共施設の整備方針（概要）

グループ	施設	整備方針
A	スポーツ・文化複合施設 (現スポーツ・文化総合センター)	<p>(ア) 機能:アリーナとホールを別に設置</p> <ul style="list-style-type: none"> ●体育館機能(アリーナ 1, 300席程度) ●ホール機能(ホール 2, 000席程度) <p>(イ) 敷地:現在の体育館、児童プール、テニスコート2面程度の敷地に整備する。</p> <p>(※テニスコートは、移設により現在の12面を維持する。)</p> <p>(ウ) 市民館・区役所との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ●スポーツ・文化複合施設と市民館・区役所を連携させ、相互補完による新たな利用形態の実現に向けて検討する。
	市民館・区役所	<ul style="list-style-type: none"> ●今後、教育文化会館の市民館機能と川崎区役所を基本に、必要な機能を整理し、具体的な検討を進める。 ●隣接の県立川崎図書館については、市内での機能存続に向け、神奈川県と協議を行いながら、今後、具体的な検討を進める。
	北側施設(児童プール・テニスコート・弓道場・相撲場・駐車場)	<ul style="list-style-type: none"> ●テニスコートは、移設により現在の12面を維持する。 ●共用駐車場はテニスコート下部への多層化を検討する。 ●児童プール・相撲場は、公園北側地区の屋外施設として再編する。 ●弓道場(和弓・洋弓)はスポーツ・文化複合施設へ複合化する。 <p>※テニスコート・駐車場・児童プール・相撲場を「北側再編施設」として相互に調整を図りながら整備する。</p>
	駐車場	<ul style="list-style-type: none"> ●各施設の附置義務駐車台数は、施設利用者の利便性を考慮し、各施設に整備する。 ●共用駐車場として、テニスコート下部への多層化を検討する。



グループ	施設	整備方針
B	川崎競輪場	<ul style="list-style-type: none"> ●富士見通り側を除く敷地の一部を公園区域に編入し、メインスタンドの耐震化を実施する。 ●多目的な市民利用として、イベント利用や市民開放などを検討する。 ●愛称の検討などを含めたイメージアップの取組を検討する。 ●防災等のまちづくりにおける貢献について検討する。 ●持続可能な事業運営をめざし、コンパクト化に向けた段階的な整備を行う。 ●まちづくりの視点や長期的展望を視野に入れ、将来の競輪場のあり方を継続的に検討する。
	長方形競技場	<ul style="list-style-type: none"> ●「ホームタウンスポーツによる魅力あるまちづくり」の考え方や、アメリカンフットボールを活用したまちづくりの拠点としての取組、フットサル等の利用状況を踏まえ、整備可能な競技フィールド等を検証しながら段階的整備を整備する。 ●賑わいや回遊性、防災機能の充実など、複合機能利用を検討する。 ●「川崎球場」の名称の変更など、イメージアップの取組を検討する。 ●第1段階整備では、既存施設（フィールド等）を活用し、4,000席程度の観覧席整備を検討する。 ●第2段階整備は、競技需要等を踏まえて整備時期・規模等を総合的に判断する。また、第1段階整備の観覧席を活用し、競輪場コンパクト化後に観覧席の増設等を検討する。

■ Bグループ



(3) 現在までの主な整備状況と事業を取り巻く状況変化

ア 現在までの主な整備状況

- 「実施計画」策定後、富士見周辺地区では施設等の整備を段階的に進めてきました。
- スポーツ・文化複合施設（現 スポーツ・文化総合センター）は、公園北側にあった弓道場（和弓・洋弓）や教育文化会館の大ホール機能を移転するとともに、整備前の体育館機能と複合化し、平成29年10月に『カルッツかわさき』の愛称でオープンしました。
- 川崎競輪場は、西スタンド・選手管理棟の整備やメインスタンドの耐震補強工事、コンパクト化に向けた既存施設の除却工事などを行い、平成30年10月に第1段階のコンパクト化が完了し、一部敷地を公園へ返却しました。
- 長方形競技場は、スタンド工事・人工芝張替を行い、平成26年度に第1段階整備が完了しました。
- こども広場は、親子で楽しむことのできる広場として平成18年度に中島保育園跡地部分を整備しました。

また、一体的な広場空間として整備する予定の隣接する北側民有地を平成27年度に取得し、今後、区画道路を挟んだ現状の敷地形状の改善に向けて、道路の付替え等を行う予定です。

- 市民館・区役所や北側再編施設（児童プール・テニスコート・相撲場・駐車場）、エントランスゾーンや公園北側広場、プロムナード、長方形競技場周辺などの公園の大部分は、現在未整備の状態となっています。

①スポーツ・文化総合センター



- PFI事業としてH26工事着手
- H29.10『カルッツかわさき』としてオープン
- 教育文化会館大ホール機能や弓道場を移転
(大体育室観覧席1,512席、ホール2,013席)

②教育文化会館、県立川崎図書館敷地



- 基本計画では、市民館・区役所を整備予定
- 教育文化会館の大ホール機能は、スポーツ・文化総合センターへ移転
- 県立川崎図書館はKSPへ移転
(令和2(2020)年に建物は解体予定)
- 現在は、教育文化会館内に市民館機能が残る

③北側再編施設

 <p>テニスコート</p>	 <p>管理事務所 (旧南部公園事務所)</p>	
 <p>旧弓道場</p>	 <p>相撲場</p>	 <p>駐車場</p>
<ul style="list-style-type: none"> ●テニスコートは 10 面で稼働 (スポーツ・文化総合センター整備前は 12 面) ●旧南部公園事務所は現在、管理事務所として使用 ●弓道場は、スポーツ・文化総合センターへ移転 (令和 3 (2021)年に建物は解体予定) 		

④川崎競輪場



- 平成 25 年度 西スタンド、選手管理棟整備完了
- 平成 27 年度 メインスタンド耐震補強工事完了
- 平成 30 年度 既存施設除去・外構工事完了

⇒一部敷地を公園へ返還 (第 1 段階のコンパクト化完了)

⑤労働会館



- 現在の教育文化会館内の市民館機能を労働会館に移転予定
- 原則として、1～3 階を市民館とし、ホール及び 4～5 階を労働会館として、今後改修予定

⑥長方形競技場



- 平成 26 年度 スタンド工事完了、人工芝張替

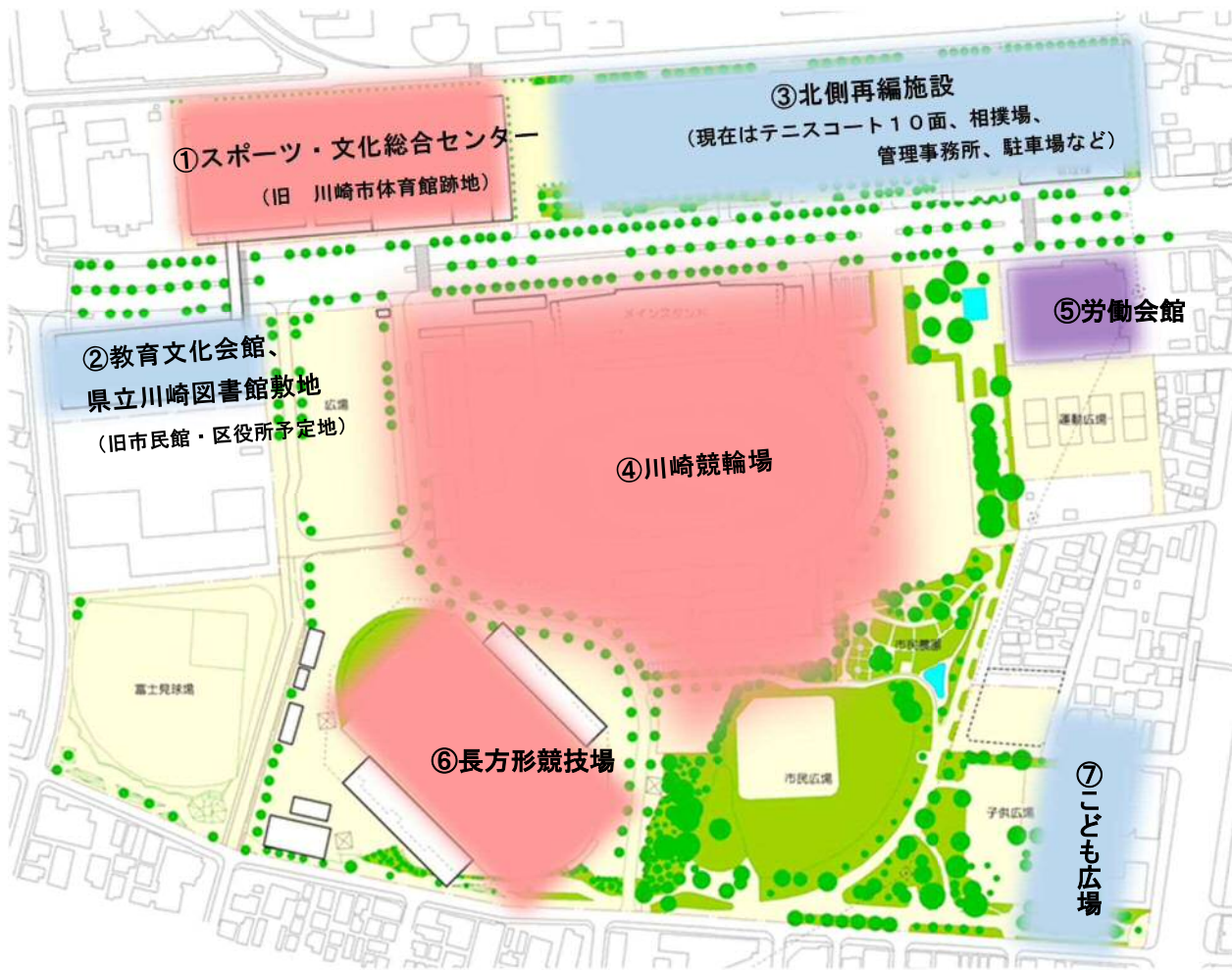
⇒第 1 段階整備完了

ネーミングライツ導入
『富士通スタジアム川崎』

- 平成 27 年度 施設全体の供用開始
指定管理者制度導入

⑦子ども広場

 <p>子ども広場(整備済箇所)</p>	 <p>子ども広場(未整備箇所)</p>
<ul style="list-style-type: none"> ●平成 18 年度 旧中島保育園跡地部分を整備 ⇒既存広場との一体活用が可能に ●平成 27 年度 隣接する北側民有地を取得 ⇒令和元 (2019) 年度暫定整備着手 	



【現在までの主な整備状況を示す図】

イ 事業を取り巻く状況変化

「実施計画」策定後から現在までの事業を取り巻く主な状況変化は以下のとおりです。

①県立川崎図書館の移転

県立川崎図書館は、「かながわサイエンスパーク」(KSP)へ移転し、平成30年5月に新たな県立川崎図書館が開館しています。

現在の富士見周辺地区にある県立川崎図書館の建物は平成29年12月に休館し、令和元年より、建物の解体工事に着手、令和2(2020)年に完了する予定です。

②教育文化会館の老朽化及び教育文化会館大ホールの閉鎖

教育文化会館は、昭和42年に「産業文化会館」として設立されており、施設・設備の老朽化への対応が必要となっています。

また、教育文化会館の大ホール機能を備えたスポーツ・文化総合センターが平成29年10月にオープンし、現在の教育文化会館の大ホールは、平成30年3月に閉鎖しました。

そのため、教育文化会館には、平成30年度以降、大ホールを除いた市民館機能のみが残っています。

③川崎区役所移転の緊急性が低下

川崎区役所は、「基本計画」策定当初は、庁舎狭隘などにより移転に向けた取組が課題となっていました。平成23年度に市税部門がかわさき市税事務所に移転し、庁舎狭隘の問題が一定の解消をされたことから、現在は移転の緊急性が低下しました。

また、川崎区役所及び支所の機能・体制等に関する検討が進められていますが、今後の機能再編により必要となるスペースについては、民間ビルの活用も含めて検討することとしています。

④公園における民間活力導入によるまちの賑わい創出等の取組

近年、全国各地で、公園などの公共空間について、民間による収益目的の利用を積極的に認め、収益の一部を施設の維持・管理に充当することによる管理の高質化に加え、まちの賑わい・交流の創出等をより積極的に図る取組が進められています。

平成29年6月には、都市公園法が改正され、「都市公園の再生・活性化」に向けた取組をより一層推進する環境が整備されました。

また、民間事業者との連携により、都市の顔となる公園の整備、管理・運営、緑を基調とした美しい景観の形成による周辺地域の価値向上、都市イメージの形成、地域課題の解決などが期待されています。

これらの状況を踏まえ、本市でも、都市公園を一層柔軟に使いこなすため、民間活力導入によるまちの賑わい創出に向けて検討を進めています。

⑤富士見中学校の生徒数、学級数の増加

富士見中学校は、計画当初と比べ、生徒数が約130名(H20:619名→R1:750名)、学級数が4つ(H20:21学級→R1:25学級)増加しています(※生徒数、学級数ともに特別支援学級を含む)。

そこで、増築校舎を建設するなど、生徒数の増加に対応するとともに、学校敷地が狭隘な状況にある富士見中学校のグラウンドの確保について、段階的に対応を図ってきましたが、近年の状況変化を踏まえると、教育環境の向上の必要性がより一層高まっています。

(4) 富士見周辺地区における公共施設再編の方向性【平成30年3月】

これまでの整備状況や事業を取り巻く状況変化を踏まえ、「富士見周辺地区における公共施設再編の方向性」（以下「公共施設再編の方向性」といいます。）を平成30年3月にとりまとめています。

ア 富士見公園の整備・管理の方向性

公園の整備・管理手法への民間活力導入に向けた取組や、「実施計画」策定後、一定の期間が経過したことを踏まえ、富士見公園の整備・管理の方向性を以下のとおり整理しています。

【ポイント①】公園の整備・管理手法への民間活力導入に向けた検討

公園緑地に関する国等の動向や、本市における民間活力の導入によるまちの賑わい創出に向けた取組と連携し、富士見公園においても、民間活力の導入（施設の設置管理許可制度の活用や、公募設置管理制度の導入、公園への一体的な指定管理者制度の導入など）によるまちの賑わい創出や更なる効率的・効果的な公園の整備・管理運営に向けた検討を進めます。

【ポイント②】公園施設の機能や配置等についての再検討

「基本計画」等の策定後、川崎競輪場のコンパクト化や長方形競技場の整備、スポーツ・文化総合センターの整備など、各施設の整備を進めてまいりました。

この様な各施設等の整備状況や利用状況、今後検討を進める公園への民間活力の導入の方向性を踏まえ、現在未整備の施設等の必要性や配置、将来的な需要予測等に基づいた駐車場の必要台数等について再検討を行います。

以上を踏まえ、富士見公園の整備・管理の方向性を以下のとおりとしています。

<富士見公園の整備・管理の方向性>

- ★「基本計画」及び「実施計画」の公園全体のコンセプトは維持する。
- ★公園の整備・管理に民間活力を導入し、まちの賑わい創出や更なる効率的・効果的な公園の整備・管理運営に向けた検討を行う。
- ★「実施計画」策定後、一定の期間が経過したことを踏まえ、必要な機能や配置、駐車場の必要台数等について再検討を行う。

イ 教育文化会館及び県立川崎図書館敷地の活用の方向性

公園の事業を取り巻く状況変化や富士見周辺地区の課題である公園本来の緑地・広場が少ない状況、富士見中学校の教育環境向上の必要性を踏まえ、教育文化会館及び県立川崎図書館敷地の活用の方向性を以下のとおり整理しました。

【ポイント①】市民館・区役所の整備計画の見直し

「基本計画」及び「実施計画」では、教育文化会館及び県立川崎図書館敷地に、市民館機能と川崎区役所を基本に複合化を図ることとなっています。

一方で、川崎区役所移転の緊急性が低下していることや、平成30年3月以降、老朽化した教育文化会館に大ホールを除いた市民館機能が残ること、市民館としての活用の余地がある公共施設等が周辺に存在していること等を踏まえ、現在の市民館・区役所の整備計画を見直します。

【ポイント②】富士見周辺地区の課題と基本計画の整備に関する基本的な考え方

教育文化会館及び県立川崎図書館敷地は、富士見公園のエントランスに隣接するなど“富士見の顔”となる恵まれた場所に位置しています。

また、富士見周辺地区には公園本来の緑地や広場が少ないという課題があり、『緑、活気、憩い、ふれあいのある、都心のオアシス』の実現やスポーツ・文化・レクリエーション活動の拠点機能の強化を進める必要があります。

そこで、広く市民利用が可能なオープンスペース機能など、多様な活用が可能な市民利用施設を検討します。

【ポイント③】富士見中学校の教育環境向上の必要性

富士見公園に隣接する富士見中学校は、計画当初よりグラウンド機能が不足しており、「基本計画」等において、状況変化に応じて、将来的なグラウンド確保に向けた検討を行うこととしています。

近年の富士見中学校の生徒数等の増加の状況を踏まえると、教育環境の向上の必要性がより一層高まっており、グラウンド機能の確保に向けた検討を進めます。

以上を踏まえ、教育文化会館及び県立川崎図書館敷地の活用の方向性を以下のとおりとします。

<教育文化会館及び県立川崎図書館敷地の活用の方向性>

★市民館・区役所の複合化の計画を見直す。

★富士見公園のエントランスに隣接している立地特性を踏まえ、“富士見の顔”に相応しい活用となる様、多様な活用が可能な市民利用施設の検討を進める。

★市民利用施設と富士見中学校のグラウンド機能の両立を検討する。

※「整備推進計画」策定における「骨子」からの主な変更点

「整備推進計画」策定における「骨子」【平成30年2月】からの主な変更点は、平成28年5月に、「新たな時代の都市マネジメントに対応した都市公園のあり方検討会（国土交通省）」において、都市が直面する課題と緑とオープンスペースが直面する課題の同時解決をめざし、これからのまちづくりに対応した緑とオープンスペースのあり方、都市公園を活用したまちの活力創出の方向性について、最終報告書としてとりまとめた「新たなステージに向けた緑とオープンスペース政策の展開について」などを踏まえ、以下の通りとします。

- 公園の多様な「ストック効果をより高め発揮させる」ため、各エリアで検討・整備を進める具体的な取組をとりまとめる
- 「都市公園を一層柔軟に使いこなす」ため、民間活力の導入検討を推進、期待される多様な効果などを整理する
- 総合計画第2期実施計画、第3期実施計画と連携を図るため、概ね10年程度の整備スケジュールをとりまとめる

※～「新たな時代の都市マネジメントに対応した都市公園のあり方検討会」最終報告書のポイントより抜粋～

・社会の成熟化、市民の価値観の多様化、社会資本の一定程度の整備等の社会状況の変化を背景として、緑とオープンスペース政策は緑とオープンスペースのポテンシャルを都市のため、地域のため、市民のために最大限引き出すことを重視するステージ（新たなステージ）と移行すべき

・この新たなステージへの移行に向けて、今後の緑とオープンスペース政策が重視すべき観点は以下の3つ

- 1 スtock効果をよる高める
- 2 民との連携を加速する
- 3 都市公園を一層柔軟に使いこなす

4 計画対象地域の整備にあたって

(1) 整備推進の基本的な考え方

計画対象地域には、市民利用施設が集積しており、市民の活動の拠点となっておりますが、前述の「3(1)「基本計画」策定時の富士見周辺地区の課題」で示したとおり、多くの課題を抱えています。

これらの課題の解決を図るため、引き続き、「基本計画」からの富士見公園のコンセプト（将来像）や整備目標等を継承し、総合的・一体的な整備を行い、「都心における総合公園にふさわしい富士見公園の再生」と「スポーツ・文化・レクリエーション活動の拠点機能の強化」をめざすこととします。

整備推進の基本的な考え方

将来像 緑、活気、憩い、ふれあいのある、
都心のオアシス・富士見公園

【整備目標①】 富士見公園の再生

【整備目標②】 スポーツ・文化・レクリエーション活動の拠点機能の強化

～整備の基本方針～

<整備方針>

- 緑地・広場の確保など、憩い、活動できる空間の創出を図る。
- 海への軸・多摩川への軸をつなぐ緑の拠点にふさわしい景観の創出を図るとともに、地域全体の回遊性の確保にも配慮した一体的な空間の創出を図る。
- 開放的で緑豊かな空間の創出を図る。
- 快適に散策できる、回遊性の高い歩行空間の創出を図る。
- 可能な限り公園区域を拡大し、安全でゆとりのある緑のオープンスペースの創出を図り、公園機能の向上に努める。
- 施設と公園とが一体となった、賑わい機能の創出を図る。

<富士見公園の再生に向けたゾーニングの考え方>

- 交流の場となるエントランスゾーン
- 緑豊かなスポーツ活動ゾーン
- 緑にふれあえる憩いと語らいのゾーン
- 活気あふれるレジャー・多目的ゾーン
- 立地を活かした文化・教育・公共施設ゾーン
- 海への軸、多摩川への軸



(2) 計画対象地域の整備の進め方

前述の「整備推進の基本的な考え方」を踏まえ、公園整備全体の調整を図り、公園内の各ゾーンにおける緑地・広場空間の整備を円滑に進めるため、「実施計画」で整理した「公園整備の基本方針に基づく整備の進め方」に、「富士見周辺地区における公共施設再編の方向性」の内容を補完し、「計画対象地域の整備の進め方」として次のとおり整理しました。

■計画対象地域の整備の進め方

1 緑地・広場の確保など、憩い、活動できる空間の創出

老朽化した市民利用施設等公共施設の再整備やコンパクト化、多目的化等により、富士見公園の拠点性にふさわしい多様な機能の充実を図るとともに、緑地・広場の確保など、公園としての本来の機能の増進を図り、市民が憩い、活動できる空間として、エントランスゾーンをはじめとする緑地・広場の整備を推進します。

2 緑の拠点にふさわしい景観・一体的空間の創出

「緑の基本計画」における、多様な機能を備えたみどり拠点としての緑の核を形成するため、新たな広場の確保や施設の整備と合わせた良好な緑の空間を創出し、都心における総合公園として魅力ある一体的な空間を創出するとともに、量感のあるまとまった緑の導入や緑の拠点にふさわしい景観の整備を推進します。

3 開放的で緑豊かな空間の創出

公園利用者や周辺住民にとってオープンで開放性のある緑豊かな公園として、多くの市民が集い、文化、スポーツ、レクリエーション等による交流を通じて、多世代の人々がふれあえる活気あふれる活動の拠点形成に向けた整備を推進します。

4 回遊性の高い歩行空間の創出

公園としての本来の機能の増進を図り、広場空間と施設が一体となって、快適な歩行空間となるプロムナードなどの歩行者動線を計画的に配置し、公園としてのまとまりや回遊性を確保した静かで落ち着いた散策空間の整備を推進します。

5 安全でゆとりある緑のオープンスペースの創出

緑のオープンスペースによる多様な機能を活用し、防犯やバリアフリー、ユニバーサルデザイン等に配慮した安全・安心な誰でも利用できる日常生活における憩いの場としての機能を充実するとともに、大規模な公園における防災機能に着目し、地域防災計画等の位置づけを踏まえながら、災害時の避難場所として周辺施設と連携した、防災機能を向上させた公園の整備を推進します。

6 賑わい機能の創出と効率的・効果的な管理運営

充実した緑地・広場の整備や市民利用施設等公共施設の連携活用により、様々な活動・イベントに対応できる場の確保や、カフェ等の飲食サービスの場の充実など、高齢者から子どもまで幅広い年齢層が利用しやすい賑わいのある公園空間の整備を推進します。また、都市公園を一層柔軟に使いこなすため、民間活力の導入(施設の設置管理許可制度の活用や公募設置管理制度の導入、公園への一体的な指定管理者制度の導入など)を積極的に進め、賑わい機会を効果的に創出するとともに、効率的・効果的な公園の整備・管理運営をめざします。

(3) エリア別整備方針

「実施計画」で整理した基本的な考え方を踏襲し、富士見中学校北側エリア（教育文化会館および県立川崎図書館敷地）や労働会館の再整備など、事業を取り巻く状況変化を踏まえた新たな考え方を追加し、エリア別整備方針として整理しました。

ア 整備にあたって配慮すべき公園機能

公園として緑地・広場などを整備する場合には、それらの緑地・広場などが持つ様々な機能に配慮しながら整備を進めていく必要があります。

ここでは、富士見公園の特性を踏まえ、重点的に配慮すべき公園機能として、「日常的な公園機能」、「イベント等に活用可能な公園機能」、「附带施設機能」及び「大規模な公園における防災機能」に分けて整理しています。

また、公園の多様なストック効果をより高め発揮させるため、各エリアで検討・整備を進める具体的な取組について、とりまとめました。

※ストック効果とは （社会資本整備重点計画（第4次計画）平成27年9月 閣議決定）より

「整備された社会資本が機能することによって、整備直後から継続的に中長期にわたり得られる効果であり、国民生活における防災力の向上、生活環境の改善といった生活の質の向上をもたらす効果や、移動時間の短縮等により経済活動における効率性・生産性の向上をもたらす生産拡大効果がある。」

① 日常的な公園機能

公園本来の機能である緑豊かな緑地・広場の確保によって、市民・来訪者・周辺住民の憩いや語らいの場として、都心のオアシスとなるような日常的な交流の場として公園機能が充実するよう整備を推進します。

具体的な整備にあたっては、多目的な空間による交流の場や、四季の変化を感じる緑にふれあえる憩いの場など、それぞれの特性に応じた空間整備を行うことが重要であり、憩いや語らいなどの交流を快適に行うことができるような芝生広場や、快適に散策ができるような緑豊かな園路、多言語対応の案内サイン等利用者の利便性に寄与する公園施設などを整備するとともに、バリアフリーやユニバーサルデザインに配慮していきます。



大阪市：天王寺公園 近鉄不動産HPより引用

②イベント等に活用可能な公園機能

都心における総合公園として富士見公園は、スポーツ・文化・レクリエーション活動の拠点機能の強化を整備目標に掲げており、市民利用施設等公共施設と連携しながら、公園空間においても様々なイベントなどで活用可能な緑地・広場空間となるよう整備を推進します。

具体的な整備にあたっては、交流の場となるエントランスゾーンについて、川崎駅周辺の回遊性向上にも寄与するほか、市民祭りなどの大規模なイベントが開催可能となるような賑わいのある広場空間を整備するとともに、緑地・広場が周辺の市民利用施設等公共施設と連携することにより効果的に公園機能を向上できるよう、相互に調整していきます。



第41回かわさき市民祭り

③附帯施設機能

駐輪場等の附帯施設機能については、公園全体の動線などに配慮しながら、緑の拠点にふさわしい景観となるよう、公園と調和した整備を推進します。

具体的な整備にあたっては、自転車利用のない場合に公園空間に溶け込むようなデザインとなるよう、駐輪スペースの配置など、公園と調和した駐輪場を整備していきます。

また、来訪者等による観光施設間の回遊性向上や商業施設の活性化、公共交通機能の補完、放置自転車の抑制などを考慮し、シェアサイクルの導入についても検討していきます。



川崎区：殿町第2公園

④大規模な公園における防災機能

一般に公園・緑地は、憩いの場やスポーツ・レクリエーションの場であるとともに、震災時には、避難場所・避難路や延焼防止のオープンスペースとして機能します。

また、ヘリポート・緊急車両の配置、救急医療などの救援活動や物資集積等の拠点としても重要な役割を果たします。

本市では、このような機能や役割を踏まえ、公園・緑地のオープンスペースの確保に努めるとともに、広域的な防災の拠点となる大規模な公園や緑地の整備を進めています。

中でも特に広域避難場所として指定されている富士見公園については、公園の重要な機能である防災機能を充実させるとともに、市民利用施設等公共施設の再編整備においても、地域防災計画等との連携を図りながら防災機能を付加するよう、整備の機会をとらえて防災機能を充実させていく必要があります。

大規模な公園における防災機能については、地域防災計画等との調整をはじめ、運営方法を含めた幅広い検討が必要となることから、公園として拡張整備する部分における防災機能の充実に向けた検討も含め、各施設における防災機能の拡充・見直しなどの継続的な検討を進めながら、公園整備や施設更新の機会をとらえた取組を推進していきます。



そよかぜ1号（手前）そよかぜ2号

イ エリア別整備方針

「実施計画」において設定した10ヶ所のエリアに加え、教育文化会館および県立川崎図書館敷地を「富士見中学校北側エリア」として新たに位置付け、各エリアの整備方針を整理しました。

なお、「実施計画」における「公園再生の基本的な考え方」において、重点的な整備を行うこととした、公園の顔づくりとなる「エントランスゾーン」と「プロムナード」に加え、『富士見の顔』となる恵まれた場所に位置する「富士見中学校北側エリア」を重点整備エリアと位置付け、公園再生に向けた中長期的な整備手順を検討する際に、公園整備における基幹的な事業となるよう、市民利用施設等公共施設の再編と調整を図りながら、全体の整備を誘導していくこととします。

各エリアの境界部分は、互いに隣接するエリアや公園施設と調整しながら、連続した公園空間として整備していく工夫が必要となります。



※これらのエリアの範囲は富士見公園として必要な公園機能の概ねの位置を示すものであり、具体的な整備にあたっては、民間活力の導入検討などを踏まえ、施設配置を変更する場合があります。

番号	図の凡例（各エリア）
A	エントランスゾーン（バスロータリー機能） 【重点整備エリア】
B	富士見中学校北側エリア（教育文化会館および県立川崎図書館敷地） 【重点整備エリア】
C	公園北側エリア
D	イチョウ並木
E	プロムナード（周遊園路）・南側緑地・広場 【重点整備エリア】
F	コミュニティガーデン「はぐくみの里」
G	こども広場
H	労働会館南側民有地
I	市民広場
J	長方形競技場周辺
K	富士見球場

A エントランスゾーン（バスロータリー機能）

◎富士見の顔となり、イベントや交流の場となる多目的広場を整備します。

◎緑に囲まれながら開放感のある広場空間を整備します。

◎公園と調和し、大規模な集客に対応できるバスロータリー機能を配置します。

エントランスゾーンは、多くの市民が憩い、活動できる「富士見の顔」となる重要な部分であり、公園本来の機能である緑地・広場の確保を行いながら、日常的な交流の場としての利用や、様々なイベントでの多目的利用などを想定し、観光にも寄与するようなイベント開催可能な広場空間として整備を進めます。

また、競輪場の第1段階のコンパクト化により創出される公園空間を活用し、大型観光バス等を利用した大規模な集客にも対応できる公園内のバスロータリー機能を備えた広場空間を計画的に整備し、都心における総合公園としての利便性に配慮した整備を進めていきます。

具体的な整備にあたっては、隣接する重点整備エリアである「富士見中学校北側エリア」とあわせて「富士見の顔」となるエリアであることから、「富士見中学校北側エリア」との景観上の連続性や、一体感のある空間形成に配慮した植栽やベンチ等の公園施設の配置などを検討した上で、都市緑化の取組を一層推進していくとともに、自然と調和した都市空間の創出など、富士見公園全体の魅力向上につながる整備を進めます。

また、災害時における大型車両の滞留を想定した耐久性についても確保していきます。



大阪市：天王寺公園 近鉄不動産HPより引用

B 富士見中学校北側エリア（教育文化会館および県立川崎図書館敷地）

◎富士見の顔に相応しい活用となるよう、多様な活用が可能な市民利用施設を整備します。

◎富士見中学校のグラウンドとしても活用可能な空間とします。

◎時間的にシェアすることにより市民利用施設とグラウンド機能を両立します。

富士見中学校北側エリアは、富士見公園のエントランスに隣接するなど、「富士見の顔」となる恵まれた場所に位置しています。

また、富士見周辺地区には公園本来の緑地や広場が少ないという課題があり、『緑、活気、憩い、ふれあいのある、都心のオアシス』の実現やスポーツ・文化・レクリエーション活動の拠点機能の強化を進める必要があります。

そのため、富士見中学校北側エリアは、広く市民利用が可能なオープンスペース機能など、多様な活用が可能な市民利用施設の整備を進めていきます。

また、隣接する富士見中学校は、基本計画策定当初から、グラウンド面積が不足しています。

さらに、「基本計画」策定時と比べ、生徒数が約130名、学級数が4つ増加するなど教育環境向上の必要性がより一層高まっています（生徒数、学級数ともに特別支援学級を含む）。

そこで、富士見中学校北側エリアについては、市民利用施設としての機能に加え、富士見中学校のグラウンドとしての活用も可能な整備を行い、時間的にシェアすることにより、機能を両立させるとともに、周辺環境や生徒の安全にも十分配慮していきます。

なお、市民利用施設は、周辺景観との調和に十分配慮した魅力的なデザインと緑化に努めるとともに、エントランスを象徴する「富士見の顔」に相応しい視認性の高いシンボルツリーを配置するなどし、活気や憩いの空間となるオアシスを実現していきます。



相模原市：小山公園ニュースポーツ広場
3b v 3 バスケットボールエリア

C 公園北側エリア（スポーツ・文化総合センター東側）

◎市民が様々な利用できる緑に囲まれた空間を整備します。

◎スポーツ・文化総合センター、東側公園施設との調和を図りながら、整備を推進します。

公園北側エリアは、富士見通りと公園北側を南北に移動でき、市民が様々な利用できる緑に囲まれた多目的空間として整備を進めるとともに、緊急時の大型車両停車スペースの確保等も検討していきます。

具体的な整備にあたっては、周辺環境にも十分配慮した植栽計画を行うとともに、スポーツ・文化総合センターや東側公園施設との調和を図りながら、緑豊かな空間を形成するように整備を進めていきます。

D イチョウ並木（富士見通り沿道）

◎整然と樹木の並んだ景観軸の形成をめざして整備を進めます。

富士見通り沿道は、イチョウを主体とした街路樹が整然と並び、富士見周辺地区を特徴づける良好な景観を形成しています。

そこで、富士見公園全体の奥行のある緑豊かな空間形成の取り組みと連携させながら、今後の市民利用施設の整備に合わせて、適切に街路樹を配置するとともに、公園南側のプロムナードとの景観上の連続性に配慮した、さらに良好な景観軸の形成をめざして整備を進めていきます。



E プロムナード（周遊園路）・南側緑地・広場

◎労働会館との調和を図り、一体利用も考慮した広がりのある空間を整備します。

◎ジョギングや散歩など、市民が往来する緑豊かな園路・広場を整備します。

◎緑豊かな憩いと語らいの緑地・広場を整備します。

プロムナードは回遊性のある空間として新たな「富士見の顔」となる重要な部分であり、エントランスゾーンから各ゾーンへの誘導を行う主要な歩行者専用通路となります。

特に、労働会館前は、公園北側から、富士見通り、プロムナードへ続く第2の玄関口となることから、労働会館との調和を図り、一体となった利用も考慮しながら、広がりのある空間を形成するように整備を進めていきます。

この周遊園路の整備により、市民が往来する緑豊かな空間が形成され、周辺の緑地や広場と調和した公園内の回遊空間やジョギング、散歩などの健康的なライフスタイルの提供が実現することになります。

具体的な整備にあたっては、競輪場コンパクト化後の南側や東側の空間をプロムナードと一体となった緑地・広場として整備することで、緑豊かな憩いと語らいの空間を実現できるため、公園区域拡大に向け、緑の拠点にふさわしい景観を創出できるよう、計画的に整備していくことが重要となります。

また、イベントでの利用が可能となるとともに、災害時には広域避難場所として緊急車両等の通行が想定されることから、プロムナードの幅員、経路、路面仕上げ、植栽等の構成等に十分配慮するとともに、自然と調和したグリーンインフラによる手法を取り入れるなど、良好な都市空間を整備していきます。



大阪市：天王寺公園 近鉄不動産HPより引用

※グリーンインフラ（G I）とは（平成27年度版 環境・循環型社会・生物多様性白書）

「土地利用において自然環境の有する防災や水質浄化等の機能を人工的なインフラの代替手段や補足的手段として有効に活用し、自然環境、経済、社会にとって有益な対策を社会資本整備の一環として進めようという考え方」

F コミュニティガーデン「はぐくみの里」

◎地域コミュニティづくりの拠点施設として維持・整備していきます。

コミュニティガーデン「はぐくみの里」は、公園内に農ある風景の創出と地域の方々との触れ合いによる地域コミュニティづくりと公園の活性化を目的に整備されており、市民の方々の協力により運営されています。

今後は、競輪場のコンパクト化によって創出された公園空間を利用し、再配置を行うとともに、競輪場東側の緑地・広場やプロムナード整備との調整を図りながら、農体験・園芸体験を通じた地域交流や身近に自然に親しめる「地域の庭」として、維持・整備していきます。



G こども広場

◎親子で楽しむことのできる広場として維持・整備していきます。

◎「自由な子供の遊び場」となるような施設を配置します。

こども広場は、現在、中島保育園跡地部分と合わせて親子で楽しむことのできる広場として整備されており、多くの方々に親しまれています。

今後は、公園として拡張した北側に隣接している用地を一体的な広場空間として整備することで防災機能の向上を図るとともに、子育て支援の場や子供達がコミュニティを育み、目を輝かせ、好奇心を満足させる「自由な子供の遊び場」となるような施設を配置していきます。

また、公園におけるトイレ設備については、だれでも、自由に、使いやすい施設となるよう留意し、わかり易い案内表示や高齢者、親子連れなどに配慮した施設の整備を進めていきます。

なお、公園利用者の安全性等の観点から、公園灯などを適切に配置するとともに、区画道路を挟んだ現状の敷地形状の改善を目的とする公園整備の関連事業として道路の付替えを行い、見通しが良く安全・安心な広場として整備していきます。



東京都練馬区：子供の森緑地
国土交通省「都市公園のストック効果を高めるための工夫事例」より引用

H 労働会館南側民有地

◎富士見中学校北側エリアの活用状況や民間活力の導入検討を踏まえながら、公園用地としての必要性を継続的に検討します。

労働会館南側の民有地については、現在、富士見中学校における教育環境の向上を図るため、富士見中学校の暫定グラウンドとして、借用してきました。

一方で、富士見中学校北側エリアは、市民利用施設としての機能に加え、富士見中学校のグラウンドとしての活用も可能な整備を行い、時間的にシェアすることにより、機能を両立させることを検討することとしており、富士見中学校の教育環境の向上という課題解決に向けた取組を進めることとしています。

そこで、労働会館南側民有地については、今後の富士見中学校北側エリアの活用状況や民間活力の導入検討を踏まえながら、将来的な公園用地としての必要性について継続的に検討を行うこととします。

I 市民広場

◎市民が憩い、語らうことのできる広々とした芝生の広場として維持・整備します。

市民広場は、現在、球技等の利用ができる広場として整備されており、多くの方々に親しまれています。

今後は、特に市民広場の外周部分について、公園全体のプロムナードの整備と調整を図り、一体的な緑地を確保するとともに、エントランス広場側からのアプローチに配慮した空間とすることで、より一層回遊性を高め、賑わいを創出するイベント等が開催できる広々とした芝生の広場となるよう、維持・整備していきます。

また、人を惹きつけ、多くの利用者で賑わうことで、公園の魅力向上と合わせて、地域の活性化や都市の価値の向上にも繋がるような市民が憩い、語らうことのできる「芝生」を中心とした空間整備をめざしていきます。

具体的な整備にあたっては、来園者がくつろぎ、長時間滞在できるよう、公共無線LAN(かわさきWi-Fi)の整備や芝生の周辺にベンチを配置するなど、利便性の向上に繋がる様々な工夫を検討していきます。



東京都豊島区：南池袋公園
国土交通省「都市の多様性とイノベーションの創出に関する懇談会」資料より引用

J 長方形競技場周辺

◎周辺に緑を配置したスポーツ活動の拠点となる賑わい空間を整備します。

川崎富士見球技場は、平成26年度に長方形競技場として整備され、平成27年2月にネーミングライツ契約を締結し、「富士通スタジアム川崎」という愛称で親しまれています。

一方で、現状では、川崎競輪場との間に位置する駐車場やフェンス等にさえぎられ、総合公園としての一体性が確保された空間とはなっていません。

今後は、東側の市民広場への動線を確保することで、富士見公園全体を効果的に利活用できるようになることから、長方形競技場周辺を競技場としての敷地のみならず、公園にふさわしい空間として効果的に整備していくことが重要となります。

このような状況を踏まえ、公園全体を効果的・効率的に整備するためには、富士見公園の顔として重点的な整備を進めるプロムナード空間の整備と十分に整合を図る必要があります。

具体的な整備にあたっては、周囲に緑を配置したスポーツ活動の拠点や様々なイベントの開催に対応した賑わい空間としての整備をめざしていきます。



K 富士見球場

◎富士見中学校の教育環境の向上と連携した野球場をめざします。

富士見球場では、利用枠の拡大や散水設備の充実など、隣接する富士見中学校における教育環境の向上を図る取組を行ってきており、引き続き市民利用と学校利用の調整等を行っていきます。

また、教育機関に隣接するエリアであることから、産業遺産を展示するなど、地域の歴史・文化を保存、活用し、将来に伝える空間の整備を進めていきます。



プラネタリー熱間圧延機フィードロール原則機用歯車

5 市民利用施設等公共施設の整備方針

(1) 施設の再編整備に向けた基本的な考え方

市民利用施設等公共施設の再編にあたっては、緑のある都心のオアシスとなる公園の実現に向けて、屋上や壁面の緑化などにより公園との一体性を確保することで、都市部におけるヒートアイランド現象の緩和や良好な自然環境の創出、うるおい、豊かさ、やすらぎ感など、都市の快適性向上を図るとともに、施設と緑地・広場等のオープンスペースが一体となったまとまりと開放性のある公園となるように、富士見公園全体としての景観形成に十分配慮していく必要があります。

特に、公園施設として整備する施設については、施設と公園が一体的に機能することで、公園全体の賑わい機能や緑地などの自然と調和した空間を創出するなど、公園機能の向上に寄与するような工夫が必要となります。

これらの施設の整備にあたっては、太陽光や風力などの自然エネルギーの活用や雨水の利用など、環境に配慮した取組を進めていきます。

(2) 各施設の整備方針

ア テニスコート・共用駐車場・児童プール・相撲場

- ・稼働率の高いテニスコートは整備前の12面を維持し、公園北側内に移設して整備することを基本とします。
- ・共用駐車場については、「実施計画」においてテニスコート下部への多層化を検討することとしていましたが、膨大な整備費用が見込まれることや法的制約などを総合的に判断し、民間活力の導入検討と連携を図りながら、多層化の実現可能性を検討するとともに、円滑な出入庫や富士見通りに与える交通負荷を可能な限り低減するため、南北両側への分割設置も含めて、配置計画を検討していきます。
- ・児童プールについては、管理運営コストやシーズン以外での有効活用の可能性などについて、各種イベントなどを通じて検証するとともに、民間活力の導入検討に合わせて再整備について検討していきます。
- ・相撲場については、公園内で再編整備を進めていきます。

施設の具体的な整備にあたっては、施設の緑化や周辺の緑地・広場の整備との連携により、緑豊かな空間の創出に配慮します。

各施設の整備位置・規模等については、利便性、快適性の向上やスポーツ・文化総合センターなどの施設との連携、自動車動線等に配慮しながら、詳細な検討を進めるとともに、管理施設や更衣室などの関連施設、カフェなどの飲食施設の設置についても民間活力の導入検討に合わせて詳細な検討を行っていきます。

整備の考え方

- テニスコートは、整備前の12面を維持し、公園北側に移設し整備
- 共用駐車場は、民間活力の導入検討と連携しながら、多層化を検討
- 児童プールは、有効活用の可能性を検証、民間活力の導入検討に合わせて再整備について検討
- 相撲場は、公園内で再編整備を推進

イ 駐車場

各施設の駐車場については、附置義務駐車台数を基本としながらも、各施設の駐車需要を踏まえ、互いに隣接した施設という利点を活かし、需要調整や共用駐車場の考え方を取り入れることで、過大な整備とならないようにしていきます。

また、駐車台数については、施設利用者の利便性を考慮し、各施設の附置義務駐車台数を施設に整備する一方、公園全体として利用できる共用駐車場を整備することとし、「実施計画」から再精査を行い、300台程度の整備と想定することとします。

今後は、民間活力の導入検討に合わせて市民利用施設等公共施設の配置計画や施設ごとの自動車分担率などを考慮した駐車台数の詳細な検討を進めていきます。

また、段階的な整備に合わせて関係機関との協議なども踏まえながら、観光バスや大規模集客施設における関係車両など、大型車の利用に対応した平置きスペースの確保、高齢者、障害者など誰もが利用しやすいユニバーサルデザイン、緑によるうるおいのある都市空間を創出する緑化ブロックの設置、様々なイベントの開催に対応できるような賑わいの空間など、具体的な整備に向けた検討を進めていきます。

整備の考え方

- 各施設の附置義務駐車台数は、施設利用者の利便性を考慮し、各施設に整備
- 共用駐車場は、公園全体として300台程度の整備を想定
- 大型車に対応した平置きスペースの確保や緑化ブロックの設置など、具体的な整備に向けた検討を実施

ウ 川崎競輪場

川崎競輪場については、既存バンクを活用しながら、段階的なコンパクト化を進め、平成30年10月には第1段階のコンパクト化が完了しています。

この競輪場のコンパクト化によって、市民に親しまれる公園空間を可能な限り創出するとともに、多目的な市民利用として、競輪場の敷地やバンク内の有効活用などにより、イベントでの利用や市民開放を進め、市民に親しまれるための工夫や、イメージアップ、さらには防災等のまちづくりにおける貢献についても、引き続き、検討を進めていきます。

将来のコンパクト化については、競輪事業の経営体質強化を図りつつ、社会経済環境の変化に適切に対応しながら、まちづくりの視点や競輪事業の長期的展望を視野に入れ、公園と共存・調和する持続的な事業運営等、将来の競輪場のあり方を継続的に検討していくこととします。

また、今後、同施設が多目的に利用できる公園施設とみなせた段階では、都市公園区域に編入することもあわせて検討していきます。

また、競輪開催時における公共交通機関の活用を推進するため、競輪場西側におけるバスロータリー機能や車両動線の配置を具体的に検討していきます。

具体的な整備にあたっては、公園利用者や競輪場利用者の動線、緑地・広場の確保、さらには富士見公園の玄関口にふさわしい景観形成に配慮していきます。



第41回かわさき市民祭り

整備の考え方

- まちづくりの視点や整備事業の長期的展望を視野に入れ、将来の競輪場のあり方とともに、更なるコンパクト化について、継続的に検討。
- 公共交通機関の活用を推進するため、バスロータリー機能の競輪場の西側への配置を検討
- 整備にあたっては、富士見公園のエントランスとなる公園空間の景観形成に配慮

エ 長方形競技場

川崎富士見球技場は、平成26年度に「実施計画」等に基づき長方形競技場として、人工芝の導入やスタンド席約3,800席、芝生席約200席の整備を完了しています。

また、平成27年2月にネーミングライツ契約を締結し、「富士通スタジアム川崎」という愛称で親しまれています。

今後は、魅力あるまちづくりという観点から、電光掲示板を改修に合わせて様々な用途で利用可能な大型映像装置などの導入による賑わいの創出やプロムナードと連携した回遊性の向上、さらに広域避難場所としての整備という観点から防災機能の充実など、エリア全体のイメージアップにつながるような取組を検討していきます。



第41回かわさき市民祭り

整備の考え方

- 大型映像装置などの導入による賑わいの創出やプロムナードと連携した回遊性の向上、防災機能の充実など、エリア全体のイメージアップに繋がる取組を検討

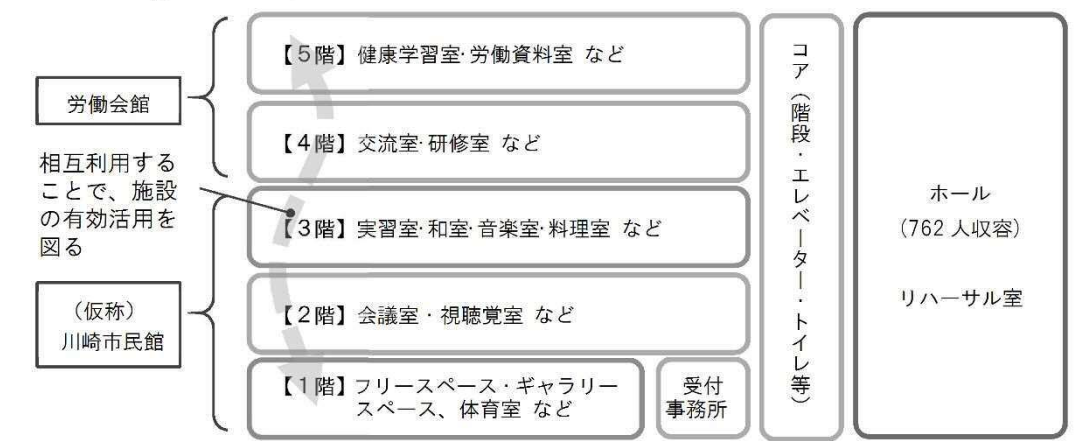
オ 労働会館

労働会館は、働く市民や労働組合等の諸団体が、憩い、語り、学びあい、その健全なる発育を図るとともに、労働者のための福利厚生施設を設け、その勤労意欲の向上に資することを目的に昭和26年に開館し、昭和34年及び昭和56年の改築を経て、現在に至っています。

今後は、平成31年3月に策定した「川崎市教育文化会館及び川崎市立労働会館の再編整備に関する基本構想」を踏まえて、労働会館を改修し、教育文化会館を川崎区の市民館（「(仮称)川崎市民館」）として、同一建物内へ整備していきます。

この基本構想におけるフロア構成イメージでは、労働会館の1階（ホールを除く。）から3階までを（仮称）川崎市民館、ホール及び4階から5階までを労働会館とし、共通の受付事務所を1階に配置するなど、スペースの有効活用や施設利用の活性化に向けた取組を進めていきます。

《フロア構成イメージ》



「川崎市教育文化会館及び川崎市立労働会館の再編整備に関する基本構想」より引用

整備の考え方

- 「川崎市教育文化会館及び川崎市立労働会館の再編整備に関する基本構想」に基づき、教育文化会館を（仮称）川崎市民館として労働会館内へ整備
- 令和2年度中に（仮称）川崎市民館・労働会館に関する「基本計画」を策定する中で、令和3年度以降の整備スケジュールを検討

6 整備推進にあたっての基本方針

(1) 公園区域等の方針

これまで、富士見公園の再生という目標を実現するため、「基本計画」や「整備の考え方(改訂版)」、「実施計画」を踏まえ、総合公園として望ましい区域となるよう都市計画法に基づく都市計画区域や都市公園法に基づく都市公園区域の変更等の手続きを進めてきました。

主な変更の経過としては、平成20年3月には川崎競輪場を都市公園区域から除外し、平成23年11月には、労働会館南側の民有地を都市計画区域に編入し、富士見中学校北側エリア(教育文化会館および県立川崎図書館敷地)を都市計画区域から除外しています。

一方で、事業を取り巻く状況変化を踏まえ、「公共施設再編の方向性」において、富士見中学校北側エリアについては、オープンスペースなど市民利用施設としての機能に加え、富士見中学校のグラウンドとしての活用も可能な整備を行っていくこととしており、富士見中学校北側エリアは、富士見公園と一体で整備・管理を行うことが効率的であることが考えられます。

そこで、今後の富士見中学校北側エリアの活用状況を踏まえ、富士見中学校の暫定グラウンドとして使用してきた労働会館南側民有地を含めた、公園区域のあり方について、継続的に検討を行うこととします。

(2) 動線等の方針

動線計画については、市民利用施設等公共施設の計画、駐車場・駐輪場の計画等を総合的に勘案して検証を行う必要があるため、今後、安全かつ円滑な歩行者動線・自動車動線を念頭に置きつつ、民間活力の導入検討と連携を図りながら、動線計画や駐車場・駐輪場の配置等について検討を進めていきます。

ア 歩行者動線

公園北側エリア(スポーツ・文化総合センター東側)については、富士見通りと公園北側を南北に移動でき、市民が様々に利用できる緑に囲まれた多目的空間として整備していきます。

公園南側については、川崎競輪場周辺や長方形競技場周辺の回遊性を確保することをめざし、プロムナードを整備していきます。

歩行者動線は、富士見公園内の施設の管理・安全面に配慮しつつ、各施設を連絡し、公園内を回遊できる園路計画を検討する必要があります。

そこで、具体的な園路の検討にあたっては、隣接エリアと連携した安全で快適な空間をめざしていきます。

園路整備にあたっては、歩行者の安全性を確保するため、生活上必要な自転車動線を除き、原則として歩行者専用とします。

イ 自動車動線（平常時）

富士見公園内の平常時の自動車動線としては、観光バスや大規模集客施設における関係車両など、大型車の利用が想定されるため、こうした状況に配慮した動線を確保します。

その際、動線計画として、エントランスゾーンに配置するバスロータリー機能における大型車動線について詳細な検討を進めていきます。

具体的な整備にあたっては、公園内の施設として、緑豊かな空間に調和するような整備をめざしていきます。

また、災害時における大型車両の動線を想定し、耐久性を確保するとともに、公園全体の管理用車両、各施設への資機材等の搬入車両の動線については、安全性や利便性に配慮して検討していきます。

ウ 自動車動線（災害時）

災害時の動線計画については、安全な広域避難場所として必要な幅員や滞留スペースを確保することが必要であり、富士見周辺地区が様々な防災機能を有していることを踏まえると、整備にあたって、防災機能についての計画的な配慮が必要となります。

具体的には、回遊性の高い快適な歩行空間として整備するプロムナードにおいては、災害時における緊急車両の通行可能な幅員、経路、路面仕上げ、植栽等の構成等となるよう配慮することや、市民が憩い、活動できる空間として整備するエントランスゾーンなどの広場空間においては、災害時における大型車両の滞留を想定した耐久性の確保などがあげられます。

エ 自転車動線

自転車動線については、「基本計画」において、歩行者の安全を確保しつつ、公園の東西方向及び南北方向を連絡する自転車動線を確保することとしています。

また、富士見通りにおける自転車通行帯の整備なども踏まえつつ、富士見周辺地区全体を連絡し、生活上必要とされる自転車動線の整備が求められています。

そのため、公園内を回遊する歩行者用園路との機能分担や、歩行者と自転車の通行空間の区分などの工夫を行いながら、今後、公園内の各施設の整備の段階に合わせて、具体的な検討を進めていきます。

なお、駐輪場は川崎駅周辺を含めたまちづくりにおける重要課題の一つであることから、公園利用者の実態なども踏まえ、駐輪台数を適切に整備していきます。

その際、公園全体の自転車動線からのアプローチを基本に、利用者の利便性や歩行者の安全等に配慮し、各施設の付近に適切に配置するよう、今後詳細に検討していきます。

また、来訪者等による観光施設間の回遊性向上や商業及び地域の活性化、公共交通の機能補完、放置自転車の抑制などの観点から、シェアサイクルの導入についても検討していきます。

(4) 防災機能の導入方針

広域避難場所として指定されている富士見公園は、広域的な防災の拠点となる大規模な公園として、公園の重要な機能である防災機能を充実させるとともに、市民利用施設等公共施設の再編整備においても、地域防災計画等との連携を図りながら、防災機能を付加するよう、整備の機会をとらえた防災機能の充実を検討していきます。

ア 川崎市地域防災計画における防災機能

川崎市地域防災計画において、富士見公園及び各施設における災害時の防災機能は、周辺施設も含め、次のように位置付けています。

【川崎市地域防災計画で位置付けられている防災機能】

施設名	地域防災計画上の防災機能
①富士見公園	広域避難場所
②スポーツ・文化総合センター	遺体安置所、風水害時避難所補完施設 帰宅困難者用一時滞在施設
③スポーツ・文化総合センター前	災害時応急給水拠点
④富士見中学校	避難所（地域防災拠点）、津波避難施設、 災害時応急給水拠点
⑤宮前小学校	避難所、津波避難施設、災害時応急給水拠点
⑥富士見球場	消防機関の活動拠点
⑦川崎競輪場	広域避難場所、津波避難施設 帰宅困難者用一時滞在施設
⑧長方形競技場	広域避難場所、津波避難施設、消防機関の活動拠点
⑨かわQホール	風水害時避難所補完施設
⑩市民広場	臨時離着陸場（ヘリポート）
⑪富士見通り	緊急交通路指定想定路線、緊急輸送道路
⑫労働会館	区災害ボランティアセンター設置候補施設、 風水害時避難所補完施設
⑬教育文化会館	区災害ボランティアセンター設置候補施設、 風水害時避難所補完施設、津波避難施設、 帰宅困難者用一時滞在施設
⑭市立川崎病院	災害拠点病院、臨時離着陸場（ヘリポート）
⑮川崎区道路公園センター	区備蓄倉庫
⑯川崎競馬場	広域避難場所、他都市等からの応援の活動拠点、 重傷者等の後方搬送拠点、 臨時離着陸場（ヘリポート）、津波避難場所
⑰川崎競馬場（駐車場）	自衛隊の活動拠点
⑱南部身体障害者福祉会館	津波避難施設

これらの機能は、現在の施設の状況を踏まえた位置づけとなっており、富士見周辺地区の再編整備の状況を踏まえ、複合的な相互利用や新たな整備される施設や公園空間における防災機能の検討など、段階的な整備に合わせ、必要に応じて見直していくこととします。

イ 公園再生における防災の考え方

公園再生にあたっては、都心における「広域避難場所」として、災害時の避難や救援活動・物資受入れ等の拠点となるオープンスペースの確保を行うとともに、延焼防止などの観点から優れた防災機能を有する緑化の推進を行っていきます。

更に、災害時には、トイレの確保・管理なども極めて重要であることから、水・食料等の支援とともに、ライフラインと同様に被災者の命を支える社会基盤サービスの一つとして、携帯トイレの備蓄やマンホールトイレの維持・管理など、適切に対応していきます。

また、地区内には、災害時の拠点となる市民利用施設等公共施設が多く立地しており、災害応急活動に必要な「臨時離着陸場（ヘリポート）」として市民広場が指定されています。

これらを踏まえ、整備にあたっては、応急活動期における応急仮設住宅建設可能候補地としての対応を視野に入れた検討や、災害応急対応の際に必要な機能を果たすような災害時動線を計画的に確保するなど、防災上の配慮を行っていきます。

災害発生時に情報拠点や応急復旧活動の中核的な拠点等となる市民利用施設等公共施設は、防災上極めて重要であるため、建築物の安全対策を進めるとともに、災害応急対応において必要な機能を整備していきます。



新潟県小谷市：白山運動公園
国土交通省「市民の暮らし、都市の活力を支える
都市公園の多様な機能～都市公園のストック効果～」
より引用

ウ 広域的な視点による運用

大規模な公園である富士見公園を含む富士見周辺地区を広域的な防災の拠点として有効に活用し、同時発生的に起こる災害に対してそれぞれの場所や施設で適切に役割分担しながら広域的な視点で運用していきます。

(5) パークマネジメントの導入方針

富士見周辺地区では、数多くの施設が立地していますが、総合公園としての魅力を高めるため、市民の利便性向上や経営的視点から、持続可能なカタチで効率的・効果的に維持管理していくことが求められます。

そこで、「川崎市 緑の基本計画」で定める『公園等への民間活力導入に向けた方針』などを踏まえ、都市公園を一層柔軟に使いこなすため、民間活力の導入（施設の設置管理許可制度の活用や公募設置管理制度の導入、公園への一体的な指定管理者制度の導入など）を積極的に進め、公園のさらなる魅力向上や自由な子供の遊び場の創出により、都市の魅力の向上やまちの賑わいの創出、地域コミュニティの活性化を図るとともに、効率的・効果的な公園の整備・管理運営をめざしていきます。

具体的には、民間事業者等から幅広いアイデアや事業についての提言、要望などを聞き取るサウンディング型市場調査を行い、公園緑地への民間活力導入の可能性や今後の取組の方向性、最適な手法について検討していきます。



大阪市：天王寺公園
国土交通省「市民の暮らし、都市の活力を支える
都市公園の多様な機能～都市公園のストック効果～」
より引用

＜緑の基本計画で定める「公園等への民間活力導入に向けた方針」＞

- ◎公園利用者に質の高い広場空間を提供するために、オープンスペースを有効活用し、賑わいを創出する
- ◎公園の魅力を高めることで個性と活力のあるまちづくりを実現する
- ◎民間のノウハウを活かすことで更なる効率的・効果的な公園の整備・管理運営を目指す

7 今後の整備の進め方

富士見周辺地区の整備は、長期的展望を踏まえながら、公園全体の再生に資するよう、各事業を調和させながら推進していくため、公園区域全体の整備の進め方や整備推進にあたっての基本方針を関係者間で共有しながら、相互に各事業を調整していく必要があります。

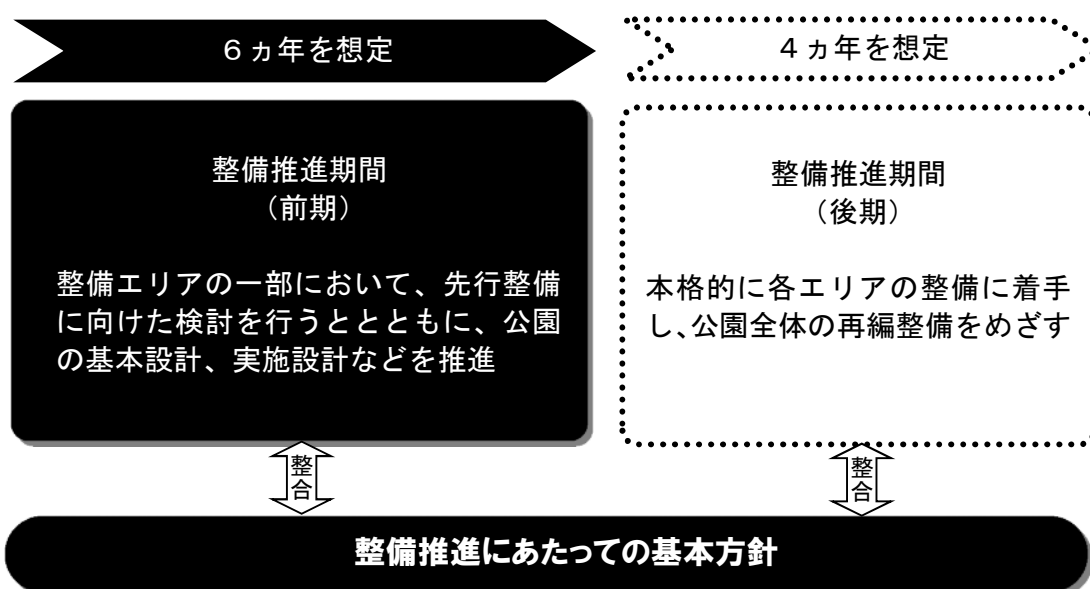
そこで、総合計画第2期実施計画、第3期実施計画と連携を図るため、令和2（2020）～7（2025）年度の6カ年を「整備推進期間（前期）」、次期総合計画期間に続く令和8（2026）年～11（2029）年度の4カ年を「整備推進期間（後期）」に分けて、概ね10年程度の整備スケジュール・手順を別表のとおりとりまとめました。

「整備推進期間（前期）」における取組としては、整備エリアの一部において、先行整備に向けた検討を行うとともに、公園の基本設計、実施設計などを進めていきます。

「整備推進期間（後期）」における取組としては、本格的に各エリアの整備に着手し、公園全体の再編整備をめざしていきます。

なお、整備スケジュール・手順の検討にあたっては、財政の平準化と費用対効果の最適化を図り、既存施設の適切な維持管理を行いながら、計画的に再編整備を進めていく必要があります。

そのため、具体的な整備スケジュール・手順の詳細については、今後、公園全体としての幅広い民間活力導入や「(仮称) 富士見公園再編整備基本計画」の検討状況と連携を図りながら、整理していきます。



※スケジュールは、整備の進捗状況や事業を取り巻く状況変化に応じて、前後することが想定されることから、前期6カ年、後期4カ年のサイクルで適切に見直していきます。

【列表】
富士見周辺地区整備推進計画
整備スケジュール・手順

令和2(2020)年より、概ね10年程度で再編整備を行うことをめざし、令和2(2020)～令和7(2025)年度を「整備推進期間(前期)」、令和8(2026)年～令和11(2029)年度「整備実施期間(後期)」とし、整備を推進する。
また、公園の再編整備においては、公園全体として、幅広い民間活力導入を検討します。

財源の平準化と費用対効果の最適化を図り、適正な維持管理を行いながら、中長期的な整備手順に基づき、計画的に各エリアの整備を実施する。
(※スケジュールは、整備の進捗状況や事業を取り巻く状況変化などに応じて、前後することが想定されることから、前期6か年、後期6か年のサイクルで適切に見直ししていきます。)

整備エリア	現状 令和元(2019)年度	第2期実施計画期間			第3期実施計画期間			次期総合計画期間	
		令和2(2020)年度	令和3(2021)年度	令和4(2022)年度	令和5(2023)年度	令和6(2024)年度	令和7(2025)年度	令和8(2026)年度	令和11(2029)年度
A エントランスゾーン		●(仮称)富士見公園再編整備基本計画の策定	●一部先行整備に向けた検討	●実施設計	●整備工事				
教育文化会館敷地	●基本計画	●(仮称)富士見公園再編整備基本計画の策定	教育文化会館を継続利用。労働会館の実施設計及び改修工事に合わせて、教育文化会館の解体時期を検討。(未定)⇒市民利用施設の整備工事に着手。						
B 県立川崎図書館敷地	●解体工事	●(仮称)富士見公園再編整備基本計画の策定	教育文化会館を解体後(未定)、市民利用施設の整備工事に着手。						
C 公園北側エリア		●(仮称)富士見公園再編整備基本計画の策定	●基本設計	●実施設計	●整備工事				●整備工事
D イチヨウ並木		●(仮称)富士見公園再編整備基本計画の策定	●一部先行整備に向けた検討	●基本設計	●実施設計	●整備工事			
E プロムナード		●(仮称)富士見公園再編整備基本計画の策定	●一部先行整備に向けた検討	●基本設計	●実施設計	●整備工事			
F コミュニティガーデン		●(仮称)富士見公園再編整備基本計画の策定	●一部先行整備に向けた検討	●基本設計	●実施設計	●整備工事			
G こども広場	●一部暫定整備	●(仮称)富士見公園再編整備基本計画の策定	●基本設計	●実施設計	●整備工事				
H 労働会館南側民有地	●公園用地の必要性の検討		●検討結果を踏まえた取組の推進						
I 市民広場		●(仮称)富士見公園再編整備基本計画の策定	●一部先行整備に向けた検討	●基本設計	●実施設計	●整備工事			
J 長方形競技場周辺		●(仮称)富士見公園再編整備基本計画の策定	●照明塔、電光掲示板等の改修	●基本設計	●実施設計	●整備工事			
K 富士見球場		●(仮称)富士見公園再編整備基本計画の策定	●基本設計	●実施設計	●整備工事				
一 北側再編施設		●(仮称)富士見公園再編整備基本計画の策定	●南側公園事務所解体	●基本設計	●実施設計	●整備工事			●整備工事
一 都市計画手続等		●富士見公園区域のあり方検討	●暫定整備(テニスコート他)	●基本設計	●実施設計				



Colors, Future!

いろいろって、未来。

川崎市

富士見周辺地区整備推進計画(案)

令和元(2019)年11月

総務企画局都市政策部企画調整課

TEL 044(200)2166

FAX 044(200)0401

E-mail 17kityo@city.kawasaki.jp

「富士見周辺地区整備推進計画（案）」 についてご意見をお寄せください

富士見周辺地区では、平成20年3月に策定した「富士見周辺地区整備基本計画」、平成23年3月に策定した「富士見周辺地区整備実施計画」等に基づき計画的に事業を推進してきましたが、これまでの計画策定から一定期間が経過したことから、各施設の整備状況や事業を取り巻く状況変化等を踏まえ、平成30年3月に「富士見周辺地区における公共施設再編の方向性」を取りまとめ、これまでの方向性を一部見直しました。

また、平成31年2月には、これまでの計画を統合・再整理し、今後の再編整備の方針を定めるものとして、「富士見周辺地区整備推進計画（骨子）」を策定しています。

この、「富士見周辺地区整備推進計画（案）」は、「骨子」に基づき、引き続き検討を進めるとともに、再編整備の方針と整備スケジュールを定めるものとして取りまとめたものです。

「富士見周辺地区整備推進計画（案）」について、皆様のご意見をお寄せください。

1 意見募集の期間

令和元年11月25日（月）～令和2年1月6日（月）

※郵送の場合は、令和2年1月6日（月）の消印まで有効です。

2 意見の提出方法

住所、氏名（団体の場合は、名称及び代表者の氏名）及び連絡先（電話番号、住所又はメールアドレス）を明記の上、次のいずれかの方法によりお寄せください。

(1) 電子メール

川崎市ホームページの「パブリックコメント手続」にアクセスし、ホームページ上の案内に従って専用フォームメールをご利用ください。

(2) ファクシミリ

FAX番号：044（200）0401

（川崎市総務企画局都市政策部企画調整課）

(3) 郵送先

〒210-8577 川崎市川崎区宮本町1番地

川崎市総務企画局都市政策部企画調整課

(4) 持参先

〒210-0005 川崎市川崎区東田町5番地4

川崎市総務企画局都市政策部企画調整課（川崎市役所第3庁舎5階）

《注意事項》

- ・ ご意見に対する個別回答はいたしません。市の考え方を整理した結果を市のホームページにて公表します。
- ・ 個人情報については、提出されたご意見の内容を確認する場合に利用し、川崎市個人情報保護条例に基づき厳重に保護、管理します。
- ・ 電話や口頭でのご意見の提出はご遠慮ください。

3 資料の閲覧場所

各区役所市政資料コーナー、情報プラザ（川崎市役所第3庁舎2階）、

川崎区役所道路公園センター（1階）、総務企画局都市政策部企画調整課、

川崎市ホームページ

4 問い合わせ先

川崎市総務企画局都市政策部企画調整課

電話：044（200）2166

E-mail：17kityo@city.kawasaki.jp